

5 華北における日本の権益発展策

440 昭和10年1月30日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線建設計画に關し蔣介石が日本
との事業協力に賛意表明との情報について

南京 1月30日後発
本省 1月30日後着

第九一號

二十八日來寧セル牛島ニ旨ヲ含メテ張競立ト會見セシメタル處張ハ

一、膠濟鐵道剩餘金ハ昨年末既ニ五百萬元ニ達シ此ノ儘ニテハ他ニ流用セラルル虞アルヲ以テ滄石鐵道ヨリ延長線建設ノ方急務ト考ヘ居レリ目下葛光廷來寧シ顧孟餘病氣ノ爲(從テ先般周作民滯寧中モ何等突キ進ンタル話無カリシ由)直接蔣介石ニ對シ意見ヲ具申セル處蔣ハ日本ト協力シテ右延長線ヲ建設スルコト然ル可シト答ヘタル由ナレハ今少シク考慮ノ上大体右方針ニテ進ミタキ所存ナリニ、滄石鐵道建設ハ後廻シトスルモ鐵道部トシテハ華昌公司

於テ建設スル以上石家莊ヨリ滄州ニ結フ線ヲ執ルコトハ意味ヲ爲サス須ラク石家莊ト天津ヲ結ビ津石鐵道トシテ敷設シ名實共ニ北寧線ノ支線トスヘク而シテ之カ建設ニ當リ日本側華昌公司及佛國側財團トノ關係ガ問題トナル處右兩者ノ權利ナルモノハ法律上ノ根據ヲ有スル次第第二非サルモノ應ニ之了解ヲ求メ双方トモ其ノ出資ヲ斷リ純然タル支那ノ鐵道トシテ建設スルノ案ヲ立テ鐵道部ニ答申シタル次第ナルカ

今日ニ至ル迄未タ何等ノ決定ヲ見サル有様ナリト答ヘタルニ付清水ハ最近他方面ヨリノ聞込ニ依レハ周作民モ滄石鐵道ニ關シ何等畫策シ居ルヤノ模様ナル處貴下ノ計畫トハ別箇ノモノナルヤト尋ネタルニ殷ハ周作民ノ計畫ナルモノハ北寧側ノ計畫ヲ前提トシテ之ニ要スル資金ヲ融通セントスルモノニシテ自分ノ主張トハ全然一致シ居ルモノナリ即チ周ノ意見ハ滄石鐵道ノ建設ニ付要スル資金ハ之ヲ必ス外國ニ仰カサルヘカラサル程ノ巨額ノモノニアラス旁日本又ハ佛國等ノ借款ヲ以テ建設スルトキハ結局複雑ナル國際關係ヲ惹起スル虞モアリ此ノ際自分等ノ盡力ニテ支那銀行團ヨリ所要ノ資金ヲ提供シタシト謂フニアリト答ヘタリ依テ清

ト周作民ヲ中心トスル支那銀行間ノ合作ニ委セシメ度キ案ナリト内話セル趣ナリ

右ハ猶當方ニ於テモ然ルヘキ筋ヨリ確メノ必要アルモノ不取敢

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

441 昭和10年2月8日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

中国側資本による石家莊・天津間鐵道敷設計
画に關し殷同北寧鐵路局長説明について

北平 2月8日後発
本省 2月8日後着

第四九號

本八日清水殷同訪問ノ序ニ清水ヲシテ殷同ニ對シ滄石鐵道問題ニ關シ現在同鐵道建設ニ付各方面ニ於テ種々ノ計畫アル模様ニテ北寧鐵路側ニ於テモ考慮シ居ルヤノ噂アルカ真相如何ト問合シメタル處殷ハ實ハ昨年二月頃鐵道部長ヨリ滄石鐵道建設ニ關シ北寧鐵路局ニ對シ立案方命セラレタルニ依リ自分ニ於テモ種々研究ノ結果同鐵道ヲ北寧鐵路局ニ

水ハ佛國側トノ關係ハ暫ク措キ我方華昌公司ノ權利ニ付之ヲ無視スルカ如キ態度ニ出ツルトキハ同鐵道ノ建設ハ到底不可能ナルヘク華昌公司ノ權利ハ我政府ニ於テモ飽迄主張スルモノナル旨警告ヲ與ヘタル處

殷ハ日本側ヲ袖ニシテ外國ノ資本ヲ入ルコトトナラハ日本ハ之ヲ承認セサルヘキモ一切外國ノ資本ヲ斷リ純然タル國內資本ヲ以テ建設スル以上日本トシテモ異議ナカルヘク過日滿鐵ノ石本總務部長來華ノ折滄石鐵道ニ關シ質問ヲ受ケタルニ付自分ノ案ヲ告ケタル處同氏モ大體諒解セル模様ナリシカ建設材料等ノ購入ニ付日本ニ對シ均等ノ機會ヲ與フルコトハ勿論ナリト述ヘ更ニ要スル二本鐵道ハ山西ノ石炭ヲ搬出シ兼テ沿線ノ農村ヲ開發スル目的ノモノニシテ其ノ建設一日早ケレハ一日ノ利アリ此ノ際在昔日ヲ過スヨリモ寧口拙速ヲ尊ヒ速ニ建設ニ着手スルノ要アリ日本トシテモ之ニ依リ受クル經濟上ノ利益多大ナルヘキヲ信スルモノナルカ一方日本ノ資本ヲ入ルコトハ自分個人トシテハ贊成ナルモ一般ノ空氣トシテハ他日政治上軍事上ノ引掛リヲ作ルモノト看做シ危懼ノ念ヲ抱クモノ多ク結局自分ハ前述ノ如キ立案ヲ試ミタル次第ナリト述ヘタル趣ナリ

支、南京、天津へ轉電セリ

442 昭和10年2月19日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券の償還期限延長に関する我
が方意向を同鐵路局照会について

青島 2月19日發
本省 2月19日着

第一八號

葛膠濟鐵路委員長ハ昨十八日大石ヲ使トシテ本官ノ許ニ派
シ實ハ鐵路局ニテ中央ト打合ノ上利益金ヨリ特別二月額二
十萬元宛積立テタル資金既ニ二百萬元ニ達シ凡テ利廻宜シ
キ當地支那銀行ニ六箇月定期ノ預金(最近利率七分ヨリ八
分ニ預替居ル由)トシ居ル處今同省政府ニテ未タ明確ニ中
央ノ承認ヲ得タルニアラサルモ差當リ濟南ヨリ聊城迄ノ鐵
道ヲ敷設シ膠濟線ノ實際上ノ延長トスル計畫ヲ建テ居ルニ
對シ場合ニ依リテハ鐵路局ヨリ資金ヲ貸與シ又不用材料ノ
拂下ヲモ行ヒテ之カ實現ヲ助成シ度キ考ナルカ二年後ニ迫
リ居ル償還期日ニ至リ日本政府ヨリ嚴重督促ヲ受クル様ニ

好意的ニ耳ヲ藉シ韓復榘トノ間ニ今少シ的確ニ話ヲ進
メタル後具體的成案ヲ以テ日本側ノ援助ヲ求ムル措置ニ出
テラルルコト穩當ナルヘキ旨大石ヲシテ葛ニ然ルヘク回答
セシメ置キタリ尙右ニ對シ折返シ葛ヨリ韓復榘モ一兩日中
ニ來青スル筈ナレハ更ニ話合ヲ遂ケ其ノ結果ヲ齎シテ來週
中ニ一度親シク本官ト面談シ度シト申込ミ來レルニ付兎モ
角話ヲ聽クコトハ喜ンテ聽クヘシト挨拶シ引續キ政府ヲ
「コンミット」セサル範圍内ニテ「ボンヤリ」ト好意的態
度ヲ示シ置キタリ右不取敢
支、北平、南京、濟南ニ轉電セリ
北平ヨリ天津ニ轉報アリタシ

443 昭和10年3月4日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還期限延長に関する同鉄
路局照会への応酬振り請訓

青島 3月4日前發
本省 3月4日後着

第二四號(極秘扱)

テハ鐵路局トシテモ責任上今日ヨリ之ニ備ヘ力ノ及フ限り
積立金ヲ増シ置クノ要アル次第ナリ之ニ反シ償還延期モ左
程困難ナク出來相ニテ且其ノ際將來ノ利率引下等ノ話合モ
附ク見込ナルニ於テハ安心シテ之ヲ一層有意義ニ利用シ得
ル譯ナレハ省政府側トノ話合上參考ノ爲本官ノ氣持ヲ承知
シ度キ旨申出テタリ

依テ本官ハ本官限りノ考ナリト前提シテ凡ソ山東經濟改發
ノ爲膠濟鐵路ノ延長線ノ必要ナルコト既ニ萬人ノ認ムル所
ナル故

若シ鐵路局ニ於テ延長線問題實現ヲ眞面目ニ盡力セラルル
ノミナラス進テ材料購入其ノ他ニ付テモ日本側ニ對シ將來
一層ノ誠意ヲ示サルルニ於テハ日本政府ノ方モ期限到來シ
タレハトテ是カ非テモ償還ヲ要求シ難題ヲ吹掛クルカ如キ
コト決シテナカルヘシト信スル處何レニシテモ其ノ時期ニ
ナリテ初テ決定ヲ見ルヘキ問題ニシテ若シ是非豫メ延期ノ
約束等ヲ得度キニ於テハ先ツ以テ右ニ對シ中央鐵道部ノ意
見ヲ定メシメ明確ナル具體案ヲ示シテ正式ニ日本政府ニ
「アプローチ」スルノ要アルヘク夫レニ付テモ差詰メ鐵路
局トシテハ折角省政府ガ熱心ニナリカケ居ル此ノ際之ニ充

往電第一八號末段ニ關シ

二日葛委員長殷秘書ヲ具シ本官來訪會見一時間鐵路局ノ日
本品購入問題(追テ郵報ス)ノ外主トシテ延長線問題ニ付懇
談セリ其ノ結果ヲ要約スルニ鐵路局ハ鐵道業務ノ擴張向上
ノ爲又省政府ハ地方經濟開發進行ノ爲双方協力シテ延長線
ノ急速實現ヲ圖ルコトニ兩者ノ意見一致ヲ見タルモノ今ノ所
(欄外記入) 見込ナシ一方例ノ四千萬圓返還期迄ニ一千五百萬圓程ハ鐵
路局ニテ積立テ得ヘキモ殘餘ノ二千五百萬圓ヲ鐵道部ニテ
調達スルコト甚タ困難ナリト認メラルル處何分今日ノ如キ
消極的ナル鐵道部ト政策問題ニ没頭シテ地方ヲ顧ミル餘裕
ナキ外交部トノ間ニ償還延期申入ノ議ヲ決定セシムルニモ
日子ヲ要シ而モ日本公使館ニ申入アリテ交渉纏ル迄鐵路局
トシテ唯手ヲ束ネ待チ明スコトモ頗ル不甲斐ナキ次第ナレ
ハ寧ロ日本政府ニ於テ支那側ノ償還延期ノ希望ニ應セラル
ル見込今日ヨリ立チ得ル場合ニハ本筋ハ本筋トシテ別ノ話
トシ此ノ際鐵路局ヨリ進ンテ中央ニ提唱シテ剩餘資金ヲ流
用シ技術的並ニ財政的ニ省政府ヲ援助指導シテ以テ膠濟鐵
道ノ實際上ノ延長線ヲ一日モ速ニ作り上ケ度キ考ナルカ之

カ第一着手トシテ事情ノ最モ良ク判リ居ル地方限リニテ話合ヲ遂ケ其ノ諒解ニ基キ直接蔣介石ニ面接上申シ同人ヲシテ鐵道部ヲ抑ヘ付ケシメテ事ヲ運ヒ度キニ付(右韓復榘ト話合濟ノ由)若シ本官ノ好意ニ依リ差當リ其ノ邊ニ關スル外務省ノ大体ノ意嚮ニテモ豫メ承知スルヲ得ハ至極好都合ナリト謂フニ在リ

右ニ對シ本官ハ充分考慮スヘキ旨答ヘ置キタルカ委員長トシテハ償還延期交渉ノ根本問題ヨリモ目前ノ延長線計畫實行上右左ヲ決スル上或程度迄ノ安心ヲ得度キ趣旨ナルヤニ察セラレ必スシモ日本ノ眞意ヲ探リタル後殊更ニ其ノ反對ニ出テテ策動セントスルモノトハ解シ難キノミナラス本官ノ立場トシテモ本件促進上ニハ今日迄ノ態度ニ一步ヲ進ムルコト最早已ムヲ得サルヘキヤニ思料セラルルニ依リ旁差支ナキ限リ次回會見ノ節本官ノ觀測トシテ外務省ニ於テモ鐵路局カ引續キ誠意ヲ示ス以上(一)鐵路局ノ省政府ニ對スル資金流用(材料ノ安價拂下ヲ含ム)ニ何等表立チテ苦情カマシキコトヲ申出サルヘシ又(二)期限前一年ニ支那側ヨリナサルヘキ償還延期方ノ申出ニ對シテモ一概ニ之カ延期承諾ヲ拒マス且鐵路局ノ事業發展ト輿地ノ經濟開發トノ爲ナラハ

ト尋ネ來レルヲ以テ本官ヨリ四千萬圓ノ償還ヲ期待シ居ルコト勿論ナリト應酬セルニ曾ハ實ハ滿期迄ニハ剩餘金モ千二三百萬元トナルヘキカ日本側ニ於テ償還延期ニ同意セラルルヤ否ヤヲ先ツ承知致度キ次第ナリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ前言ヲ繰返シ支拂方主張セル上尤モ例ヘハ最近新聞ニ傳ヘラルル濟南聊城間建設資金等ニ付困難ヲ感シ居ルモノナラハ同地方ニ於テ日本ノ有スル權益並ニ民國七年ノ濟順高徐兩線ノ延長ニ關スル日支約束ノ精神ニモ顧ミ支那側ヨリ隔意無ク協議シ來ルコト必要ナリト本官歸朝中打合せノ趣旨ニ從ヒ我方立場ニ付詳細申聞ケタル處曾ハ兎モ角日本政府ノ意嚮御確メ願度ク右ヲ承知セル上御相談致スヘシト述ヘタルニ依リ政府ニ取次キ置クヘシト答ヘ置キタリ就テハ當地ニ於テモ償還要求ト並行シテ具體的目標(例ヘハ客年往電第一〇一〇號ノ趣旨)ニ向ヒ徐々鐵道部方面ヲ誘導スヘキ時期ニ達セリヤトモ思考セラルルニ付何等心得ヘキ點アラハ折返シ御回示相成度シ

(轉電先脫?)

相當好意的考慮ヲ加フヘキ見込充分アリト認ムル旨本官ヨリ口頭ニテ然ルヘク葛ニ内報シ之ヲ以テ更ニ延長線計畫ニ拍車ヲ加フルト同時ニ今後葛ニ對シ本官直接之カ實現ヲ督促スル足掛リトナシ得ル様措辦致度シ就テハ右ノ「ライン」ニテ進ミ差支ナキヤ本省御意見早目ニ御回示ヲ請フ支、南京、北平、濟南、天津ヘ轉電セリ

(欄外記入)

此ノ方針ハ已ニ出先ニテ承知シ居ル筈ナリト思フ

444 昭和10年3月6日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還期限延長に關し曾仲鳴
鐵道部次長が我が方意向を照会について

南京 3月6日後発
本省 3月6日後着

第二三四號(極秘)

五日他用ヲ以テ曾仲鳴ト會見セル處曾ヨリ極秘ナルカ膠濟鐵道國庫證券滿期ノ際日本側ハ如何ニセラルル方針ナリヤ

445 昭和10年3月9日 広田外務大臣より
在青島坂根總領事宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還期限延長に關する同鉄
路局照会への応酬振り回訓

本省 3月9日後6時30分発

第一二號(極秘)

貴電第二四號ニ關シ

一、本問題其ノ後ノ推移ニモ顧ミ客年往電第六四號ノ如ク南京ニ於テハ條約論又山東ニ於テハ便宜論ヲ以テスル確然タル態度ノ使分ケヲナスコトハ最早適當ナラサルヤニ思考セラレ從テ南京發本大臣宛電報第二三四號前段ノ應酬振ハ事宜ニ適スルモノト認メラルル次第ナルト共ニ今後貴地方面ニ於テモ大体右様ノ振合ニテ條約論ト便宜論トヲ相交ヘ可然應酬セラルルコト可然ト存ス但シ依然南京ニ於テハ條約論ノ方ニ重キヲ置クニ對シ貴地方ニ於テハ便宜論ノ方ノ色ヲ濃クスル氣持ニテ進ムヘキコト勿論ナリ(冒頭貴電ハ主トシテ延長線問題ニ對スル我方ノ意向ヲ求メ居ルニ反シ前記南京來電ハ主トシテ國庫證券償還延期ニ對スル意向ヲ求メ居ルヤニ認メラルル處今後我方

トシテハ右兩者ヲ成ル可ク關聯セシメテ取扱フ氣分ニテ進ムコト有利ト認ム)

二、但シ此ノ際過早ニ帝國政府ノ意向ヲ明示スルコトハ得策ナラサルニ付差當リ政府ノ意向トシテハ矢張り「證券期限満了ノ際完済セラルヘキコト又延長線ニ關スル日本ノ權利ノ尊重セラルヘキコトヲ重要視シ居ル」旨ヲ申聞クルニ止メラルト共ニ支那側ニ於テ證券及延長線問題ニ付誠意ヲ披歷シ具体案ニテモ作成ノ上腹藏ナク相談シ來ルニ於テハ右帝國政府ノ態度ヲ緩和シ得ヘキ望アリ(外務省側ノ空氣トシテニホハセラル、コトモ差支ナキモ主トシテ貴官等ノ見込トシテ申聞ケラレ度殊ニ山東ニアルモノノ立場トシテハ支那側カ日本ノ諒解ヲ得テ速カニ延長線ノ建設ニ着手スルコトヲ希望セサルヲ得ストノ趣旨ヲ以テ應酬セラレ度從テ冒頭貴電末段(一)及(二)ノ如キ具體的ノ點ハ此ノ際トシテハ敍上ノ次第二對スル貴官限リノ例示。説明トシテ言及スルニ止メラレ度

三、要スルニ本件ハ貴官等ノ御盡力ニ依リ或程度迄ハ軌道ニ乘リ來レル譯ニテ我方トシテハ機會ヲ逸セサル様注意ノ要アルモ一方日本關係ノ一般的好轉并ニ支那財政の金融

延長線ニ關シ私見トシテ冒頭往電ノ趣旨ヲ極メテ簡單ニ繰返シ置キタル處會ハ研究ヲ續ケタル上御相談致度シト述ヘ居タリ

447 昭和10年3月14日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還期限延長問題に對して
は同鐵道延長線建設設計圖の具体化を妨げない
ように対応すべき旨意見具申

青 島 3月14日後発
本 省 3月14日後着

第三三號(極秘)

貴電第一二號ニ關シ(山東鐵道國庫證券及延長線問題)

一、延長線計畫實現氣運促進上本官ノ今日迄最モ苦勞シ來レル點ハ鐵路局カ日本ノ權利ヲ尊重セサルコトニ非スシテ餘リ日本側ノ權利ノ主張ヲ悞レ過キテ手ヲ出ササルコトニアリ、當地方カ天津、北平ノ昨今ノ狀態ニ影響セラルル所多ケレハ多イ丈ケ又山東全體特ニ膠濟鐵路ニ對スル日本ノ「キーン、インタレスト」ヲ承知スレハスル丈ケ

的ノ難局(現下難局ノ成行ニ依リテハ國庫證券返済ノ困難ハ一層加重スヘシ)等今後我方トシテ利用シ得ヘキ材料尠ナカラサルヤニ認メラルル次第ニテ旁々此ノ際我方ニ於テ焦ルコトハ禁物ト存ス(申ス迄モナキ儀乍ラ今次葛委員長申出ニ我方カ直ニ喰ヒ付クカ如キ印象ヲ與ヘサルコト肝要ナリ爲念)

訓令トシテ南京ニ轉電セリ
參考トシテ支、北平、濟南、天津ヘ轉電セリ

446 昭和10年3月14日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本政府は膠濟鐵道國庫証券の満期完済を希望する旨曾仲鳴へ回答について

南 京 3月14日後発
本 省 3月14日後着

第二七五號(極秘)
往電第二三四號ニ關シ

十三日曾仲鳴ニ對シ帝國政府ハ満期ト共ニ完済ヲ期待シ居レリト告ケタルニ曾ハ失望ノ体ニ見受ケラレタルカ其ノ際

兎角支那側責任者ハ常習ノ事勿レ主義退嬰主義ニ陷ラントシ從テ日本ノ現今ノ壓力モ第三國ノ干與ヲ排斥スル上ニハ申分無ク有效ナルモ扱テ逃腰ノ支那側ヲ抱込ミ彼等ヲシテ進シテ新シキ仕事ヲ爲サシムル様仕向クル爲ニハ直ニ別ノ政治的問題乃至個人的利害ノ問題ト混淆シ勝ニテ實際上ノ話ヲ進ムル時ニ却テ邪魔ニサヘナル位ナリ

二、右ノ事態ニテ本官ハ行々延長線問題、國庫證券償還ノ問題ト合體論議セラルル運命ニアルニセヨ差當リノ處償還延期問題ハ適當ノ時期ニ中央ニ於テ商議決定セラルヘキ筋合ナリトノ建前(ヲ)持スルト共ニ延長線ニ付地方ノ實際問題トシテ精々好意的ニ之ヲ考慮シ遣ル途ナキニ非ストノ態度ヲ仄カシ一方内面的ニ木村大石兩處長ヲ督勵シ鐵路局ノ事務及會計ノ責任者タル立場ヨリ熱心慇懃ニ努メシメタル結果葛委員長ト省政府トノ間ニ弗々ト非公式ノ話合進ミ漸ク往電第二四號ノ通り腰ヲ上ケ來リ先ツ中央ヲ動かス工作ニ着手セル勇氣丈ケ固クナリ(夫レモ未タ委員全部ニ非ス)右工作ノ爲差詰メ積立剩餘金五百萬元ヲ此ノ方面ニ使用シ日本側ヨリ文句言ハルコトナキヤ否ヤ又之カ爲將來償還問題トノ關係ニ於テ自分等ノ困

ル場合ナキヤ否ヤ或ル程度迄確メノ要アル段階ニ踏ミ掛ケカカレル次第ナルカ此ノ際具體案全部ヲ定メ之ヲ示シテ挨拶シ來ラサル限り公式ニハ素ヨリ非公式ニモ何等實ノアル話ヲセスト言フニ於テハ先方トシテモ中央ノ諒解ヲ取り付クル具體案ノ基礎ヲ失フ譯ニテ自然再ヒ觸ハラヌ神ニ崇ナシノ消極的態度ニ落込ミ去ルヘキハ見易キ道理ナリ

三、サレハ本官トシテハ延長線問題ニ關スル限り成ルヘク政府ノ終局的態度ヲ拘束セサル現地役人間ノ下打合ノ意味ニテ最早徐々彼一步我一步ト穩ニ親切ヲ以テ話ヲ具體化シ其ノ結果少クトモ濟南、聊城間ノ工事ニ一日モ速ニ着手セシムルコトヲ得テ積立金五百萬元ヲ使ヒ切ラシムルニ於テハ難産ノ延長線カ初メテ茲ニ陽ノ光ヲ見ルコトトナルヘキノミナラス延テ償還延期ノ正式交渉モ先方ヨリ氣樂ニ口ヲ切り双方協議ニ無理ヲ來ササルヘシト認メラルルニ反シ先方ヲシテ日本ノ償還要求ヲ豫期セシメ從テ延長線計畫等全ク拋棄シテ千五百萬元内外ノ積立ヲ終ラシムル時ハ殘額二千五百萬元トナリ(之ハ其ノ時ノ各般ノ情勢ニモ依ルヘキカ鐵道部ニ於テ條約ニ牴觸セサル形

本人ノミニテ供給セシムルコトハ當然ニシテ又サノミ困難ニアラサルヘシ)之ハ直ニ次ニ來ルヘキ高徐線等敷設ニ付テモ大體同斷ナルカ此ノ案トシテモ償還問題正式交渉ノ時期迄此ノ儘持越ストキハ所謂突詰メタル話トナリ實行辦法トシテノ妙味ノ大半ヲ失フヘク併セテ日支一般關係改善ノ兆著シキ今日ト雖速ニ之ヲ着手實行セシムルハ理窟ト實力ニテ壓ヘ付ケテモ目的ヲ達シ難キ性質ノモノナルニ鑑ミ

寧口此際ハ實力ノ銳鋒ヲ深メニ藏スル心構ニテ稍理窟ヲ離レ去リトテ早目ニ日本側ノミヨリ言質ヲ與フル理ナキハ勿論ナルモ歩一步近寄り合フコトニ依リ絶エス前途ニ充分ノ希望ヲ持タシムル程度迄懷中ノ寬サヲ示シ親切ナル指導ト「エンカレデメント」ヲ施スニ非サレハ相手ハ左顧右盼ニ時ヲ送り十中八、九迄又々流産ニ終ルナキヤ切實憂慮セラルル次第ナリ

五、現地ノ事態大略右ノ如クナルモ本官ハ冒頭貴電御訓令ノ趣旨ニ反セサル様暫ク葛委員長トの間ニモ御來示ノ範圍ニテ接洽ヲ續ケ情勢ヲ見テ更ニ請訓御詮議ヲ仰クヘキカ唯日本政府ハ期限到來ノ節完済ヲ期待スルモノナリトノ

式ノ下ニ調達方到底不可能ナルヘシト豫定スルハ極メテ危險ナルヤニ觀測セラルルコト本官モ木村大石モ全然一致セル見方ナリ)假ニ其ノ後ニ及ヒ我方ヨリ何トカ言掛リヲ付ケ得ルトシテモ結局償還金ノ全部若ハ一部ヲ綺麗ニ受取ルモ差支無シトスル最後ノ腹出來居ラサル以上却テ我カ足下ヲ見透サレ延長線問題ハ勿論償還延期問題自体ノ交渉ニモ先方ノ懸引ヲ一層有利ニスルコト無キヤ懸念ニ堪ヘサル所ナリ

四、延長線問題今日迄ノ經緯ニ顧ミ純然タル日本ノ借款鐵道トシテ單獨ニ之カ實現ヲ望ムコトハ何カ當地方ニ驚天動地ノ新事態生セサル限り一般情勢上無理多キヤニ認メラルルノミナラス膠濟鐵路局自身ヲシテ之ヲ實行セシムルコトニ至リテモ鐵路局自體ノ償還問題ヲ二年後ニ控ヘ之カ目鼻ノ見透サヘ付カサル今日到底期待スルコト困難ナレハ誰カ見テモ穩當ナル案トシテ山東省政府カ主トシテ之カ建設ノ責任ヲ執リ鐵路局ヨリ資金ヲ供給スル代リニ一手ニ之ヲ借上ケ實際上一本ノ鐵道トシテ直接經營スルノ案以上ノモノ殘念乍ラ見當ラス(此ノ場合少クトモ右借上權ヲ對日本ノ擔保トシ外部ノ資金ハ實際支那人及日

點ハ將來受取拒絶ノ場合アルヘキヲ想定シ得ルニ加ヘテ前記ノ通延長線問題トノ關係モアリ必要以上ノ刺戟ヲ與ヘ先方當局者ヲ縮上ラセル結果トナラサル様相當手心ヲ加ヘ當面ノ話ヲスルコトト致度キニ付特ニ御含ミ置キ相煩度シ

南京、支、北平、濟南、天津ニ轉電セリ

448 昭和10年3月18日 在青島坂根總領事より 広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還期限の延長承諾を私見として仄しつつ同鐵道延長線建設計画の具體化に邁進するよう鐵路局側を督励について

第三七號(極秘)

往電第三三號末段ニ關シ

青島 3月18日後発
本省 3月18日後着

本十八日葛委員長ト會見ノ序ヲ以テ最近本官ノ得タル印象ニ依レハ外務省ハ期限到來ノ節當然債務ノ完済アルヘキヲ期待シ居ルモノノ如クナルカ去リトテ鐵路局カ今後眞面目

ニ自己ノ使命ヲ盡シ誠意ヲ表ハスニ於テハ日本政府カ償還延期ヲ應諾スヘキ望無キニシモアラスト察スルニ依リ鐵路局トシテハ御話ノ延長線計畫ノ如キ急ヲ要スル現地ノ問題ニ付速ニ的確ナル具体案ヲ樹テテ中央部ヲ動カスコトニ勇往邁進セラルル方得策ナルヘシトアツサリ申聞ケタルニ葛ハ本官ノ好意ヲ謝シタル上何レ又御相談致スヘキニ付宜シク御指導ヲ請フト挨拶セリ

右應接ノ模様爲念

支、北平、南京、濟南、天津へ轉電セリ

449 昭和10年4月9日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

秦皇島北方での泰記(日中合弁)・柳江(中国人経営)両炭鉱間の採掘権紛争およびその解決方針について

天津 4月9日後発
本省 4月9日後着

第八一號

秦皇島北方石門寨附近ニ在ル泰記炭坑(淺野出資)ノ日支合

一礦區ニ二重ニ許可ヲ與ヘシ形跡アリ泰記ノ許可ヲ得シハ民國五年ナルヲ以テ柳江側ノ申分ハ根據ナキカ如ク双方ノ主張全ク背馳スル現狀ナリ要スルニ本件ハ採礦權ヲ有スルモ秦皇島迄ノ輸送機關ヲ有セサル泰記ト採掘施設並ニ秦皇島迄輸送機關ヲ有スルモ自己ノ所有礦區ヲ掘リ盡シ隣礦ノ盜掘ニ依リ漸ク支ヘ居ル柳江トノ對立ナルヲ以テ結局ハ双方ノ合辦ニ妥結スル外ナキ處其ノ順序トシテ泰記ヲシテ先ツ盜掘ト認メラルル部分ニ對スル泰記ノ礦區所有權ヲ立證セシメ柳江カ盜掘ヲ爲シ居タル事實ヲ明カニシ其ノ損害賠償要求ヲ以テ柳江ヲ壓シ柳江ヲシテ合辦ノ餘儀ナキヲ認識セシムル様當館ニ於テハ之ヲ導ク方針ヲ取り居ルモ此ノ種問題ニ關シテハ支那側ニ兎角情實纏綿ノ弊アリ省政府側ハ現ニ柳江側ヲ庇護シ居ルカ如ク認メラルル形跡アルヲ以テ今後解決ヲ見ル迄ニハ相當紛糾ヲ繰返ス虞アルニ付右不取敢電報ス委細公信

支、北平、南京、滿へ轉電セリ

450 昭和10年4月18日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

辨事業ニシテ此ノ炭坑ト齊燮元所有ノ長城炭坑トノ合同ハ遂ニ成立ヲ見ルニ至ラサリシ成行ハ御承知ノ通)ハ民國五年採掘許可ヲ得直ニ事業ヲ起シタルモ排日其ノ他ノ障害ノ爲中止中隣接ノ支那人經營柳江炭坑ノ爲一部分盜掘セラレ居タル處最近再ヒ事業ヲ興サントシ客月十日其ノ礦區ヲ明カニスル爲境界線上ニ標柱ヲ挿込ミタルニ柳江側ハ山海關ニ於ケル縣政府ヲ經テ省政府ニ對シ自己ノ礦權ヲ侵害セラルルモノトシテ訴出テ省政府ハ建設廳技師ヲ派遣シ實情ヲ調査セシムルト共ニ泰記側ノ權利ヲ否認セシメントスルニ至レリ當館ニ於テハ當初ヨリ泰記側ノ願出ニ依リ山海關警察分署ニ命シ一方同地關東軍特務機關儀我大佐ニ側面的斡旋ヲ求メ現地ニ於テ泰記ノ權益保持並ニ柳江トノ關係ノ圓滿解決ヲ計ラシメ居タル次第ナルカ客月三十日同地ニ於ケル各關係者ノ會見ノ際省政府並ニ柳江側提出ノ資料ニハ柳江ノ主張ヲ明カニ立證スヘキモノ無ク物別レトナリシカ

本月五日柳江代表者ハ更ニ儀我大佐ニ對シ同炭坑カ泰記ヨリ先ニ政府ノ許可ヲ得居レリトテ其ノ主張ノ正當ナルヲ強調セルモ泰記側ノ調査ニ依レハ柳江ハ民國九年許可ヲ得タルモノニテ當時政府側ニ於テモ之ト結托セルモノアリテ同

中国側資本による滄石鉄道建設計画を殷同披瀝に對し我が方華昌公司の敷設優先權尊重方
同人に説示について

南京 4月18日後発
本省 4月18日後着

第三八七號

北平來電第一九號ニ關シ

十二日殷同上海ニ於テ公使ヲ來訪滄石鐵道ハ支那側資本ニテ建設シ唯從來ノ經緯ニモ鑑ミ特例トシテ右ノ所要材料ハ日本側ヨリ借入ルル事トシタキ旨述ヘ汪ニ對シ公使ヨリ本官ニ相談方申聞ケ置カレタル趣ノ處殷ハ十六日本官ヲ來訪シ鐵道部ヨリ客年二月本鐵道設計畫樹立方ノ命ヲ受ケタル次第並ニ石本ニ於テ支那側ニ於テ建設スルモ不可無カルヘキ旨申出アリ華昌公司ハ滿鐵カ主ナリト聞及ヒ居レハ大体石本ノ考ニ依リ促進スル事得策ナリト思考シ過殷莫干山ニ於テ此ノ趣旨ニテ黃郭トモ相談シタル次第ヲ述ヘ何トカ日支合作ノ對照トシタキ旨申出テタルニ依リ本官ヨリ、本契約上ノ權利ハ間然スル處無ク之ヲ無視スルカ如キ如何ナル案ヲモ認メ得スニ當方ニ於テハ八年前ヨリ右建設ノ準備

応酬振り指導方訓令

本省 4月20日午後3時15分発

合第三二〇號(極秘)

南京發本大臣宛電報第三八七號ニ關シ

石本ハ二十一日大連發支那旅行ノ途ニ就ク趣ナル處旅程等不明(南支迄赴ク由)ナルモ自然本件支那側關係者ト接觸スルコトモアルヘキニ付不取敢滿鐵支社ヨリ石本ニ對シ滄石問題ニ關シテハ天津上海又ハ南京ニ於テ豫メ外務省側出先ト充分打合セテ遂クヘキ旨電報セシメ置キタルニ就テハ同人貴館立寄ノ上ハ議會調書、最近ノ關係電信及冒頭南京來電等ニ基キ本件我方工作ノ經緯及政府ノ方針篤ト御説明相成客年十二月七日附亞二機密合第一七二三號附屬乙號ノ「ライン」ニ依リ此ノ際石本ニ於テ殷同等支那側關係者ニ對シ濫リニ北寧鐵路側ニ依ル又ハ支那資本ニ依ル滄石線建設ヲ許容スルカ如キ口吻ヲ洩ササル様而テ必要アラハ冒頭南京來電須磨ノ應酬振ニ倣ヒ華昌公司ノ權利ヲ強ク先方ニ「インプレス」スルニ努ムル様將又山東鐵道問題ニ付キテハ滿鐵ハ直接關係ナキ次第第二モアリ取合ハサル様充分御申聞相成度

ニ腐心シ居リ

三石本ノ意見ハ本件ニ何等ノ關係無キ旨ヲ申聞ケ一應辭去セシメ更ニ本十八日再ヒ來訪ノ際本官ヨリ公使トモ相談ノ上ナルヲ前提シ先ツ華昌公司ノ契約上ノ權利實行方ニ關シ殷同等ニ於テモ助力スル事肝心ニテ愈々右實行ノ際ニハ其ノ方法ノ問題トシテ華昌ニ於テ支那側事業家ト話合ヲ遂クル事トシテモ可ナルヘキ旨申聞ケタルニ殷ハ納得シ其ノ積リニテ促進ノ手段ヲ盡スヘシト答ヘタリ

尙其ノ際殷同ハ本件ニ關聯シ例ヘハ山東延長線問題等日支合作事業一般ニ付日支合辦ノ組織ヲ實現スル事得策ニテ何レ其ノ具体案ヲモ提出スヘキニ付御考慮置キアリタシト述ヘタリ(委細郵報)

支、北平、天津へ轉電セリ

451 昭和10年4月20日

広田外務大臣より
在中国有吉公使、在中国若杉大使館參事官、在天津川越總領事他宛(電報)

近く中国視察を行う滿鐵總務部長に対し滄石鐵道および山東鐵道問題に關する中国側への

本電宛先 支、天津、南京、北平、青島

冒頭南京來電青島へ轉電シ本電ト共ニ濟南へ暗送セシム

452 昭和10年4月22日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線問題に關し今後は同鐵道への
我が方監督權が延長線にも及ぶよう中国側への
働きかけが肝要の旨意見具申

天津 4月22日後発
本省 4月22日後着

第九四號(極秘)

本官上海會議ヨリノ歸途青島ニ於テ葛光廷ニ面談ノ際膠濟鐵道延長線ニ關シ葛ノ内話要旨左ノ通

一、博山支線延長計畫ハ種々ノ纏レアリ且建設費一千万圓ヲ要スヘキヲ以テ一先之ヲ打切ルト共ニ專ラ濟南以西ノ延長線ニ力ヲ注キ度キ考ニシテ建設費モ此ノ方ナラハ一千万圓ニテ足ル見込ナリ

二、本件延長線計畫ニ對スル障礙ノ一ハ南京鐵道部ノ反對ニシテニハ隴海鐵路側ノ自己ノ利害ヨリスル反對ナルカ自

分(葛)ノ見ル所ニ依レハ隴海線カ更ニ甘肅地方迄延長セラレタル曉ニハ年額約一千万圓ノ貨物同線ニ依リ運ヒ出サルヘキ見込ナル處海州ハ現在政府ニ於テ計畫中ノ築港工事完成後ト雖年二百万圓以上ハ取扱ヘサルヘク結局出口トシテ青島ヲモ必要トスル次第第二ニ目前ノ利害ハ兎ニ角終局ニ於テ延長線ハ隴海線ヲモ利スルコトナルヘキヲ以テ隴海沿線ノ何レカノ地點ニ於テ延長線ヲ之ニ接續セシメント考ヘ居レリ

三、如上葛ト談話ノ際本官ノ得タル印象ニ依レハ葛ハ我方國庫證券ノ償還延期ヲ申込みト共ニ現在積立テアル五百萬元ニ今後ノ餘剰收入ヲ加ヘ之ヲ資金トシテ濟南以西ノ延長線建設ノ決意ヲ固メ居ルモノノ如ク唯我方ノ拘束カ延長線ニモ及フコトハ南京側ノ反對ヲ一層煽ルコトナルヘキニ付出來得レハ之ヲ避ケ度キ意向ナルヤニ察セラル今後ノ我方工作トシテハ支那側ノ借款償還延期申出ニ引懸ケ現在我方ノ膠濟鐵道ニ對シテ有スル監督權ヲ其ノ儘或ハ幾分ノ修飾ヲ加ヘテ延長線ニモ及ホシ得ル様支那側ヲ指導スルニ重點ヲ置クコト肝要ナルヤニ思料セラル

支、北平、南京、青島、濟南へ轉電セリ

昭和10年4月25日

在中国若杉大使館参事官より
広田外務大臣宛(電報)

滄石鉄道の商業的価値および龍烟鉄鉱の調査

計画に関する満鉄総務部長の内話について

北平 4月25日後発

本省 4月25日後着

第一一五號

貴電合第三二〇號ニ關シ(滄石鐵道問題)

二十四日石本來訪ノ際貴電ノ趣旨ハ天津ニ於テ承リタル旨語リタルニ付本官ヨリハ別ニ重ネテ説示セサリシモ同人ハ最近滿鐵筋ニテ調査セル大沽ノ現狀カ僅ニ積荷一千噸位ノ船舶(從前ハ三、四千噸以上ノ見込ナリシ)ノ出入ニ適スルニ過キサル狀態ナルニ鑑ミ同港ヲ積出港トスル滄石鐵道ノ商業的價值少ナキ由ニテ同線路ヲ輕視シ居ルカ如ク見受ケラレタルヲ以テ本官ヨリ同線ノ商業的價值ハ兎モ角トシテ我方ニ於テハ本件ヲ支那側ノ北支ニ於ケル日支經濟提携ニ對スル態度ノ試金石ノ意味ニ於テモ極メテ重視シ居ル次第ナル旨ヲ念ヲ押シ置ケリ

往電第一一三號^(編註)龍烟鐵礦ニ對スル滿鐵側ノ意嚮ヲ尋ネタル

濟南 5月15日後発

本省 5月15日後着

第六八號

往電第五三號ニ關シ

南京發貴大臣宛電報第四二〇號ノ次第モアリタルニ付本十五日日本官韓主席ト會見ノ際夫レトナク確メタル處韓ハ膠濟線延長方ニ關シテハ御承知ノ通自分ヨリ蔣、汪並ニ鐵道部ニ又沈市長及膠濟路側ヨリ屢次鐵道部等ニ意見ヲ具申シ居ル處之ハ絶對秘密ニ願ヒ度キカ今般鐵道部ヨリ自分宛公文ヲ以テ本件延長問題ハ膠濟借款金ノ問題解決ヲ見ル迄ハ之ヲ具體的ニ討議セサル方針ナルニ付右ニ御承知アリ度キ旨ノ回答アリ又道濟鐵道延長問題ノ如キ最近相當進行ヲ見居ルヤニ外間流布セラレ居ル處第一期計畫タル道口、大名間ハ兎モ角大名濟南間ノ延長實現ハ仲々困難ニテ本件ハ膠濟側ノ延長ヲ抑フル手段トシテ殊更ニ宣傳セラルルヤニモ考ヘラレ彼此考究スル時ハ此ノ際日本側ヨリ直接中央ニ對シ相當手強ク交渉セラルルコト肝要ナラスヤ云々ト語り居タリ右御參考迄

支、北平、青島、天津、南京へ轉電セリ

處石本ハ同鐵礦ニ關シテハ先般土肥原少將來平ノ際殷同、周作民、湯爾和ヨリ同鐵礦製鐵所設立計畫ノ爲技師派遣方依頼アリタル趣ヲ以テ同少將ヨリ話アリタルニ付之ヲ機會ニ再ヒ同鐵區ノ調査ヲ試ミタキ意嚮ナルモ其ノ調査ハ主トシテ鐵石ノ性質ト其ノ運搬路ノ關係ノミニテ滿鐵ニハ製鐵又ハ製鋼所ノ設立ヲ援助スルカ如キ意嚮ナキヲ以テ若シ支那側力大倉邊ニ委囑シテ製鋼所建設ノ目的ヲ以テ調査セシムルコトハ滿鐵側ニトリテハ差支ナシト語レリ本件ハ曩ニ當地高橋武官ヨリモ參謀本部へ電稟ノ次第アリ又近日殷同東京着ノ筈ニ付御參考迄申添フ

支、南京、天津へ轉電セリ

編註 本書第682文書。

454

昭和10年5月15日

在濟南西田總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線設計画は国庫証券償還問題が解決するまでは具体化せずとの鐵道部方針に関する韓復榘山東省主席の内話について

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

455

昭和10年5月16日

在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線建設設計画に関する鐵道部と鐵路局との協議停滯について

青島 5月16日後発

本省 5月16日後着

第六八號(極秘?)

往電第三三號ニ關シ

十五日日本官葛委員長ヲ鐵路局ニ往訪、延長線問題及博山輕鐵買收問題其ノ後ノ模様ヲ問質シタル處遺憾ナラ南京トノ話合頓ト進ミ居ラスト答ヘタルニ付右ノ有様ニテハ鐵路局並ニ省政府トシテ餘リニ地方ノ經濟開發ニ不熱心ナラスヤト切實反省ヲ促シタル末聞ク所ニ依レハ道清鐵路局長范。予。遂ハ既ニ會仲鳴部長代理トノ間ニ話合ヲ着ケ差當リ道口ヨリ大名迄延長工事實行方決定材料費トシテ鐵道部ヨリ百二十萬元發給シ殘額ハ上海銀行團ヨリ借入ルコトトナリ范局長自ラ熱心運動ノ結果銀行側ノ承諾ヲモ取付ケタルニ依

支、北平、南京、天津、濟南へ轉電セリ

456 昭和10年5月18日 在天津川越總領事より
 広田外務大臣宛(電報)

泰記対柳江の採掘権紛争に関し日本側による
 柳江貯炭場差押えの実施および両者合併に向
 けた協議進行中について

天津 5月18日後発
 本省 5月18日後着

第一二三號

往電第八一號並ニ機密第三五八號拙信ニ關シ

柳江所有貯炭場ノ差押ヘハ豫定通り本月四日之ヲ斷行セル
 處柳江側ハ邊ニ從來ノ態度ヲ改メ事件解決ノ爲進ンテ泰記
 側ニ接近スルニ至リシヲ以テ十五、十七ノ兩日山海關ニ於
 テ儀我大佐、臨榆縣長立會ノ下ニ双方代表會合シ双方ノ資
 料ヲ基礎トシテ交渉ノ結果柳江側ハ遂ニ問題トナレル礦區
 ニ付泰記側ノ權利ヲ認ムルニ至リ更ニ儀我大佐及縣長ノ勸
 告ニ依リ兩者合併ノ試案(大体柳江ノ現ニ所有スル鐵道其
 ノ他ノ施設ヲ其ノ儘使用シ泰記ノ礦區採掘ヲ爲シ營業上ノ

リ鐵路局測量隊ハ六月一日出發大名迄ヲ第一段トシ濟南迄
 ヲ第二段トシテ實測ニ着手スヘシトノ趣旨ナルカ右果シテ
 事實トセハ日本ノ利害ニモ直接影響スル所重大ナル由々敷
 キ問題ナルニ付真相ヲ取調ヘ回報アリタシト稍輕捷的ニ申
 入レタルニ葛ハ南京鐵道部カ特ニ膠濟鐵路ノ諸問題ニ對シ
 甚タ氣乗薄ナルハ自分ノ觀察ニテハ肝心ナル部長不在ノ故
 ニモアレト一ツニハ日本カ北支方面ニテ何日軍事行動ニ出
 ツルヤモ計ラレストノ中央要人ノ疑念ニモ基ク所多キカ如
 シトテ支那側ノ認ムル日本陸軍ノ橫暴振ヲ擧ケ從テ中央ノ
 日支接近モ唯今ノ所兎角口ノ方カ先ニナリ心ト心カ解ケ合
 ハサル爲未タ充分行ニ表ハシ得ス誠ニ遺憾ノ次第ナルカ道
 清鐵路ニ付テハ福公司カ盛ニ投資ヲ申出テ居ル由ハ聞知シ
 居ルモ夫レトテ大名迄ノ問題ニシテ而モ鮮カラス實行困難
 ナルヤニ認メラレ況ヤ此ノ際上海銀行團カ成績不良ノ同鐵
 道ノ借款ニ應募スルカ如キハ容易ニ信シ難キ處ナリト述ヘ
 自分ハ近々北平ニ赴クヘキニ依リ其ノ節ハ政治分會ノ了解
 ヲ得テ出來得レハ范局長トモ良ク話ヲ遂ケ齟齬ヲ來ササル
 様努力致スヘク夫迄ニモ何等確實ナル情報アリ次第必ス貴
 官ニ通知スヘシト挨拶セリ御參考迄

權利ハ泰記三柳江一ノ割合トスル條件)ヲ作り柳江側代表
 ハ右ヲ持ツテ近ク上海ニ赴キ同地ニ於ケル資本家側ト協議
 スルコトナレリ

支、北平、南京、滿へ轉電セリ

~~~~~

457 昭和10年6月1日 広田外務大臣より  
 在中國若杉大使館參事官、在中國堀内  
 大使館一等書記官、在南京須磨總領事  
 他宛

滄石鐵道および膠濟鐵道問題に関する殷同と  
 桑島東亞局長との会谈要領について

付記 四月二十日付在南京須磨總領事より広田外務

大臣宛公信機密第三一七号

滄石鐵道建設などを目的とする日中合弁会社

設立計画に関する殷同提案について

亞一機密合第九九六號

昭和拾年六月壹日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國大使館參事官

若杉 要殿

在中華民國大使館一等書記官

堀内 干城殿

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿  
 在天津總領事 川越 茂殿  
 在青島總領事 坂根 準三殿  
 在濟南總領事 西田 畊一殿  
 滄石鐵道及山東鐵道問題ニ關シ殷同東亞局長會談ノ件  
 本月二十八日滄石中ノ殷同東亞局長ヲ來訪シ滄石鐵道問題  
 等ニ付會談スル所アリタル趣ニ付右會談要領別紙ノ通何等  
 御參考迄ニ通報ス

本信宛先 支、北平、南京、天津、青島、濟南

#### (別紙)

桑島東亞局長及守島第一課長ト殷同トノ會談要領

(昭和十年五月二十八日)

#### 一、滄石鐵道

殷同ニ於テ『客秋顧孟餘ヨリ自分ニ對シ北寧鐵路局ニ於  
 テ滄石鐵道建設ニ關スル具体案ヲ具シ鐵道部ニ稟請スル  
 様命令アリタルヲ以テ自分ハ顧部長ニ對シ滄石鐵道ニ關  
 シテハ日本ノ外佛國側トモ複雑ナル關係アル由聞及ヒ居  
 ルカ北寧側ニ於テ是等ノ對外關係ヲ顧慮セス計畫ヲ進メ

差支ナキモノナリヤト反問セルニ顧部長ハ日本及佛國側トノ關係ハ何レモ正式ノモノニ非ス本契約等モ成立シ居ラサルヲ以テ此ノ點ハ心配ナシト答ヘタリ當時北寧鐵路局年收ハ約二千四百萬元ニテ約千三百萬元ノ經常支出ノ外國民政府所定ノ債務償還制當額軍費ノ補助等ノ支出約五百七十萬元其他ヲ除クモ約四百萬元ノ剰余アルノミナラス滄石鐵道ハ土木工事モ已ニ完了シ居レハ橋梁二本、二百哩ノ「レール」ノ外サシテ多額ノ經費ヲ要セス又京津方面ノ支那銀行團ニ於テモ三年位ニテ償還ノ豫定ニテ借款ヲ募集スルコト可能ナル狀態ニテ北寧鐵路局側ニテ具体案ヲ立ツルコト比較的容易ナリト考ヘタルモ自分(殷)ハ豫テ華昌公司ノ話モ聞キ居リタレハ多年紛爭アリシ對外關係ヲ無視シテ迄北寧側ノ責任ニテ本鐵道ヲ建設スルハ自分ノ責任問題モアリ一應之ヲ斷ルコト可然ト考ヘ鐵道部ニ對シテハ滄石鐵道ハ津浦線ノ滄州ト平漢線石家莊トヲ聯結スル鐵道ニシテ北寧線トハ直接ノ連絡關係ナケレハ北寧側ニ於テ立案スルハ多少見當違ヒナルヘク若シ北寧側ニ於テ立案スルトセハ北寧線ノ延長トシテ或ハ別ニ石家莊天津間ト言フ様ニ新ナル計畫ヲ立ツルコト

適當ナルヘク尤モ天津石家莊間ニ鐵道ヲ敷設スルニハ全然新ニ土盛工事等ヲナササルヘカラサルノミナラス途中ニハ沼地モアリ滄州石家莊間ニ比シ巨額ノ費用ヲ要スヘク是等ニ關スル利害得失ハ鐵道部ニ於テ充分研究ノ上決定セラレ度トノ意見ヲ上申シ置ケリ(支那側ニテ華昌ノ權利ヲ確認スレハ建設スヘキ鐵道ノ「ルート」ヲ如何ニスヘキカ又終點ヲ太沽<sup>天津</sup>トスヘキカ天津トスヘキカ等ハ更ニ相談ノ仕様モアルヘシト當方ヨリ述ヘ置ケリ)右様ノ次第二テ滄石鐵道敷設問題ハ最近自分渡日前赴寧ノ際迄中絶シ居タル次第ナルカ前記赴寧ノ際汪院長ヨリ自分ニ對シ滄石鐵道ニ關スル日支間ノ契約ハ正式ニ成立シ居ルモノニハ非ラサルモ最近ノ日支間ノ空氣ニモ鑑ミ何トカ解決スルコト可然トノ話モアリタリ自分カ鐵道部長ヨリ聞知セル所ニ依レハ華昌公司ト何澄トノ契約ハ成立シ居ラス、即チ當時ノ鐵道部長孫科ヨリ結局市吉トノ契約ニ調印シ差支ナシトノ訓令ヲ何澄ニ發シタルハ事實ナルカ如キモ何澄ハ遂ニ調印セサリシトノ話ナリ就テハ最近日支兩國ノ關係ニモ顧ミ此ノ際華昌公司ノ權利云々ノ問題ハ暫ク問ハス別ニ日支合作ノ一銀團様ノモノヲ設立シ之

ヲシテ滄石鐵道敷設問題ヲモ右銀團ノ活動ノ一トシテ研究實行セシメテハ如何ト考ヘ居レリ』ト述ヘタルヲ以テ局長及課長ヨリ右契約書ニハ何澄モ調印シ居リ華昌公司ノ權利ハ何等間然スル所ナキモノナル旨及不平等條約廢棄ト同趣旨ノ日本側原權利否認ノ態度ハ主義上絕對承認シ難キ旨縷々説明シタル處殷同モ同人カ支那側ヨリ得タル豫備知識ノ甚タ正確ナリシ點ヲ認メ何レ契約文ニ就キ自分モ更ニ研究シ見ルヘシト述ヘ居リタリ

更ニ種々話合ヒ會談ハ大体左記「ライン」ニテ運ハレタルカ殷同モ結局解決案ハ此ノ邊ニ存スヘキヤノ口吻ナリキ

(一)北支ニ於テ日支經濟提携ヲ研究シ且實行スルタメ日支双方資本家ニ依リ一ノ銀團ヲ組織スルコト(殷同熱心ニ提唱ス)

(二)華昌公司ノ權利ハ飽ク迄有效ナルモノニ付右建前ニテ前記(一)トハ別ニ華昌公司ヨリ鐵道部ニ對シ契約ノ確認ヲ求メ鐵道部ヨリ正式ニ本契約ヲ承認スルコト(當方ヨリ強ク主張ス)

(三)鐵道部ニ於テ華昌公司ノ權利ヲ確認シタル上ハ華昌公

司トシテモ兩國最近ノ空氣ニモ鑑ミ同公司ト前記(一)ノ銀團トノ話合ノ具合ニ依リテハ滄石鐵道敷設事業ハ銀團ノ活動ノ一トシテ華昌公司ヨリ銀團ニ敷設權ヲ讓渡スルコト

(前記(二)ニ關シ殷同ハ『華昌契約カ確カニ成立シ居レハ鐵道部モ之ヲ認メサルヲ得サルヘク又若シ成立シ居ラストスレハ華昌契約ニ基ク權利トハ別ニ、但シ本件ニ關スル從來ノ日支交渉ノ因縁ニモ顧ミ前記(一)ノ銀團ニテ滄石鐵道ヲ建設スルコトセハ可ナルヘシ』ト頻リニ述ヘタルニ付當方ヨリ華昌ノ權利ハ確實ナルモノニテ華昌公司ノ權利ヲ否認シ其ノ代リニ日支合作ノ銀團ニテ滄石鐵道ヲ建設セムトノコトニテハ面白カラサル旨當方ヨリ申聞ケ置キタリ)

## 二、山東鐵道問題

殷同ヨリ山東鐵道問題ニ關スル日本側ノ眞意ヲ確カメル様各方面ヨリ依頼アリタル處日本側ハ本問題ニ關シ如何ニ考ヘ居ラルルヤト質問セルニ付要スルニ日本トシテハ國庫證券ノ償還要求ハ既定ノ方針ナルカ一方山東地方ノ繁榮ハ亦重キヲ置ク所ナリ從テ支那側ニ於テ堅實ナル山

東開、發案ヲ研究ノ上日本側ト隔意ナク御相談スト言フ態  
度ニテ出テ來ラルルナラハ日本側トシテモ償還期限到來  
ノ際現在支那側ニ於テ危惧シ居ラルルカ如キ突拍子モナ  
キ要求ヲ持チ出ス譯ニモ非ラサルヘキモ支那側ニテ右様  
ノ誠意ナク償還期限迄ニ日本トノ話合付カサレハ厄介ナ  
ル事態トナル虞アリトノ趣旨ヲ答ヘ置ケリ

(付記)

機密第三二七號

(5月1日接受)

昭和十年四月二十日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

滄石鐵道建設等ヲ目的トスル日支合辦會社設立ニ

關シ殷同談話報告ノ件

本月十九日附機密第三一六號拙信末段ニ關シ本月十八日會  
見ノ際殷同ハ本官ニ對シ日支合辦會社ヲ組織シ之ヲシテ滄  
石鐵道及膠濟鐵道延長線ノ建設、棉花ノ栽培、砂糖ノ販賣  
等ニ當ラシメ日支協同ノ實ヲ舉クルコト然ルヘク右ハ現存

滄石鐵道の終端港を変更すべきなど滿鉄總務

部長の中國視察に基づく見解について

機密第四二四號

(6月12日接受)

昭和十年六月三日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿鐵石本總務部長ノ支那視察ニ基ク見解報告ノ件

(欄外記入)

滿鐵石本總務部長五月二十九日日本官ヲ來訪(同夜津浦線ニ

テ北上)北支、中南支方面視察ノ結果得タル感想トシテ近  
ク滿鐵總務部ニ東亞課ノ新設ヲ見ルコトトナリ愈々對支活  
動ヲ開始スル段取リトナルニ於テハ大體左記「ライン」ニ  
ヨリ計畫ヲ樹ツル要アリトノ結論ニ達シタル處右ニ關シテ  
ハ天津、北平、漢口、廣東、福州、上海等各地ニ於テ外務、  
陸海軍等各官憲ト意見交換ノ機ヲ得タルモ之ニ對シ異存ヲ  
唱フル向無カリシニ付六月四、五日頃大連歸着幹部ニ報告  
シ何分ノ決定ヲ得タル上副社長之ヲ携ヘ上京ノ手筈ナリト  
語レリ右石本ノ觀察ハ  
、滄石鐵道ハ外務官憲ヨリノ御指示ニヨリ權利設定ノ爲必

ノ中英公司等ヨリ大規模ノモノトシ政界ニ連絡アル人物  
(例ヘハ支那側ニ於テハ唐有壬ノ如キ)ヲ幹部トスルコト必  
要ナルヘシ此ノ種公司ニ於テ事業ヲ行フコトトセハ日本側  
モ主張ヲ貫徹スル一方支那事業界モ日本ヲ藉リテ支那官憲  
ノ不合理ナル要求ヲ却ケ得ヘキニ付好都合ナルヘシト述ヘ  
タルヲ以テ本官ヨリ右ハ面白キ案ナルモ此ノ種公司ノ活動  
ニハ支那官憲ノ誠意アル態度ヲ前提要件トスルヲ以テ此ノ  
點ヲ十分見極メタル上研究スルコトトスヘシト應酬シ置キ  
タリ

右報告申進ス

本信寫送付先 公使 北平 天津

編注 冒頭欄外ニ「殷同來朝中ニテ大臣次官ヲ來訪スヘシト

思ハル、ニ付特ニ提出ス」との守島東亜局第一課長の

書込みがあり、広田外務大臣と重光次官の花押および

「大体ニ於テヨシ」との重光次官書込みがある。

458

昭和十年6月3日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛

要ナル工作ヲ妨ケサル様措置シ來レルカ實地調査ノ結果

ニ徴スルニ山西炭ハ同鐵道ニヨリ積出スルモ他ノ石炭ト  
競争出來ス又太沽港ハ僅カニ壹千噸級ノ船舶ヲ入レ得ル  
ニ過キサレハ石炭ヲ更ニ壹萬噸級ノ船ニ轉載スルニ要ス  
ル經費等ヲ考量ニ入ルル時ハ益々山西炭ノ他炭トノ競争  
ヲ困難ナラシム加之同港ノ河床ハ五十尋位ノ泥ニテ築港  
計畫殆ト絶望ナル等ノ理由モアリ同鐵道ハ先ツ先ツ價值  
ナキモノト見ルノ外ナク飽ク迄之ヲ建設セントスルニ於  
テハ出口ヲ他ニ求ムルノ必要アル處之ニハ先ツ外務、陸  
軍及滿鐵ニテ勃海灣ヲ共同調査シ適當ナル出口ヲ見出ス  
ノ外ナキカ結局ハ秦皇島ニ歸着スヘキモ之トテ滄石鐵道  
現在ノ路線ニテハ依然有望ト認ムル能ハス

ニ北支ニ付テハ察哈爾等內蒙古地域ヲ此儘ニ放置セハ茲ニ、  
三年內ニ蘇聯ノ勢力ニ捲込マレ第二ノ外蒙トナル虞アリ  
蘇聯ハ東支鐵道ノ賣却ニヨリ得タル資金ヲ以テ此方面ニ  
進出シ來ルヘキコト明カナルヲ以テ此際取急キ之カ防止  
ノ措置ヲ執ルノ要アル處之カ爲ニハ日本カ徒ラニ日本單  
獨ノ「エキスプロイテイション」ニ急ナルノ餘リ遂ニ其  
ノ機ヲ失シ蘇聯ノ拔クヘカラサル勢力ノ確立ヲ招來スル

ニ至ルコトナキヤラ虞ルル次第ナリ惟フニ今後日本ハ全支那ニ對シ日本單獨經營主義ヲ棄テ國際合作經營ニ參加スルノ要アルヘク又經營方法トシテモ玉萍鐵道ニ對シ獨逸カ材料供給ヲ爲シ單純ナル貸借契約ニヨル鐵道建設ヲ實現シタル方法ヲ採ルモ可ナルヘク何レニセヨ日本ハ速急先ツ包頭ヨリ内蒙古ヲ橫貫スル鐵道ノ建設ニ專念スヘキモノト思考ス

三、最近南支殊ニ西南方面ニ對スル日本ノ進出ヲ如何ニモ最モ有望ナルカノ如ク主張シ居ル向アリ殊ニ廣西ノ親日氣分ヲ高調シ帝國發展ノ新天地ハ先ツ同方面ニアリトナス向アル處仔細ニ同方面ノ實情ヲ觀察スルニ(一)税關問題(密輸問題)(二)船運問題(三)金融機關問題ノ三者ノ解決ヲ先決條件ト認ム即チ

(一)西南方面ハ全ク邦人海關吏ノ影ヲ認メス主トシテ英人海關吏ニ依リ行ハルル監視手加減ハ帝國商權ノ發展障害ヲ及ホスコト多大ナルヘキ處陳濟棠ノ兄陳維周カ公式大規模ノ密輸會社ヲ組織シ大小ノ物資ヲ西南一帶ニ密輸シ居ル事實ハ我方ニ於テモ場合ニ依リテハ右方法ニ依ルヲ可トスル見地ヨリ相當研究ヲ要スヘク何レニ

長觀察ノ如シトスルモ先ツ我方ノ有スル同鐵道ノ權利ヲ確定スルコト必要ニシテ、右權利ノ確定ヲ俟チ技術上其他ノ見地ヨリ更ニ路線ノ變更等種々ノ考慮ヲ加フル餘地アルヘク又少クトモ同鐵道ノ權利ヲ強ク主張シ續クルコトニヨリ他ノ我方主張ヲ貫徹シ得ルニ至ルコトモアルヘキニ付同鐵道ニ關スル石本部長ノ意見ハ何等我方從來ノ方針ヲ變更セシムルニ足ラス

二、帝國ニヨル單獨經營方針ヲ國際合作主義ニ緩和スヘシトノ見解ハ相手タル支那ヲ知ラサルノ言ニシテ若シ國際合作亦然リトノ建前ニテ交渉セハ支那ノ術策ニ陥リ結局何事モ出來得サルヘク又帝國ノ支那及東洋ニ對スル氣構ハ如何ナル事業ニ於テモ飽迄先ツ帝國ニ於テ「ライオンズシエアー」ヲ保持スルニ非サレハ萬全ヲ期シ得ヘカラストノ一點ニ歸スヘク從來外國側ニ對シテモ將又支那側ニ對シテモ右方針ヲ堅持シ之カ主張ニ終始シ來リタレハコソ國際借款問題ノ進行ヲモ先ツ先ツ喰ヒ止メ居ルモノト云ハサルヘカラストノ趣旨ヲ申聞ケ置キタルカ之ニ對シ石本部長ハ一ノ點ニ付テハ納得シ二ノ點ニ付テハ外交上ノ折衝ノ方法トシテハ首肯シ得ルモ實際問題トシテハ英

スルモ現狀ノ打破當分不可能トセハ正當ナル手續ニヨル本邦商品進出ノ如キハ思ヒモヨラサルトコロナリ

(二)日本船舶ノ西南ニ於ケル出入港數量ハ英國ノ夫レニ比シ十分ノ一二モ足ラサル實情ニシテ殊ニ郵船、大阪商船、日清氣船等ノ統制甚タ亂雜ナリ(三)社間通シ切符ノ發行スラ行ハレ居ラス(此分ニテハ如何ナル方面ノ指示アルモ技術的ニ見テ我方ノ進出ニ便ナラス

(三)中央、中國、交通三銀行統制ノ結果西南方面ニ於テハ既ニ銀紙ノ差ヲ生シ香上銀行、「チャータード」銀行等英國側金融機關ハ之ヲ利用シ餘程ノ「カラクリ」ヲ爲シ自然英國側貿易ニ相當ノ支援ヲ與ヘ居ルモノト認メラルル處我方ニ於テモ先ツ確乎タル金融機關ノ充實ヲ見ルニ非サレハ到底相當長期ニ亘ル發展ハ期待シ難シト認ム

以上南支ニ關スル觀測ハ移シテ支那全般特ニ長江筋ニモ適用シ得ヘキモノト思考ス

右石本部長ノ觀察ニ對シ本官ヨリ一應ノ意見トシテ前記三ノ西南ニ對スル方策ニ付テハ同感ノ點尠カラスト雖モ一、滄石鐵道ノ建設ニ關スル技術的及經濟的考慮ハ假ニ同部

米資本亦可ナリトノ見解ヲ棄テ得サルモノナリト述ヘ居リタリ

尙滿鐵本社ハ六月十日頃ヨリ支那各地駐在ノ係員ヲ集メテ會議ヲ催ス趣ノ處右ハ大體前記石本ノ意見ヲ議題トシ支那ニ於ケル交通並ニ金融統制ノ方策ヲ討議スルヤニ認メラル以上何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 大使 北平 天津 上海 廣東 青島  
濟南 在滿大使 漢口 福州

#### (欄外記入)

日本ガ主動トシテノ國際投資ハボツ／＼考エテモ可ナラン

昭和10年7月6日 広田外務大臣より  
在天津川越總領事宛(電報)

泰記對柳江の紛争問題に關し領事館警察は柳江炭鉱の接収掩護など公然と泰記側を援助する活動を嚴に慎しむよう訓令

天津 7月31日後発  
本省 7月31日後着

第一九七號(極秘扱)

満鐵ハ軍部ノ懲洩ニ依リ龍烟鐵礦ノ第二次調査ヲ行フコトトナリ既ニ王克敏、曹汝霖、張新吾(現在丹華燐寸總經理)、殷同北寧ハ硫鉛公司ノ管理費ヲ出シ居ル由)等關係者ノ諒解ヲ取付ケ過般來昭和製鋼所ノ技師二名ヲ派遣シテ北平近傍ノ三家店ニアル龍烟製鐵所ノ調査ヲ開始シ更ニ八月早々在北平阮鐵道部特派龍烟公司管理官ノ案内ニテ地質、採鐵、鐵道技師及經濟調査員各二名計八名ヲ山元へ派シ鐵區ノ基本的調査ヲ行フコトトナリ居レリ尙右ノ山元派遣員二對シテハ當館ニ於テ護照ヲ發給セルカ別ニ高橋武官ヨリ秦德純宛身柄保護方申入濟ノ由ナリ

支、北平、南京へ轉電セリ

461 昭和10年8月7日 広田外務大臣より  
在仏国佐藤大使宛(電報)

開瀾炭鉱の營業不振は深刻にしてベルギー側

三、他方最近同炭坑ノ營業不振ハ益々深刻ナル如ク同炭坑當局ハ百三十万噸以上ニ達スル滯貨賣捌ノ爲ニモ一般窮況切抜ノ爲ニモ此ノ際生産制限ノ一途アルノミトナシ八月一日ヨリ各鐵區毎ニ毎週一日休坑(五日就業トナル)ヲ實行スルコトトナリ工人慰撫ノ爲聲明ヲ發セル由ナリ

四、以上三、四ノ如ク最近開瀾炭坑ノ形勢ハ客夏支那側トノ妥協ニ依リ局面打開ヲ策シタル開平側ノ期待ヲ裏切り而モ客春日本側ニ讓渡方申入レタル場合ノ狀態ニ似テ更ニ之ヨリモ緊迫セルモノアルヤニモ認メラレ從テ開平側殊ニ白耳義人株主側ヨリ再ヒ我方ニ賣却方交渉ヲ持掛ケ來ラサルヲ保シ難キニ付責任國ニ於ケル開平側ノ動靜ニ注視方特ニ御配意相成度

訓令トシテ英、白ニ轉電アリ度

462 昭和10年8月10日 在青島田尻(愛義)総領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

償還準備とも見える膠濟鐵路局の積立金に關し対応振り請訓

泰記柳江兩炭坑合併問題特ニ泰記側カ執ラントスル第二次強行手段(目下柳江側ニ提案シアル合辦又ハ買収等ニ先方カ應諾シ來ラサル場合ニ於テハ我方官憲援助ノ下ニ柳江炭坑ヲ差押ヘントスルモノ)ニ關シ五日日支炭鑛汽船白石ヨリ東亞局長ニ陳情ノ次第アリタル處右泰記側提案ニ餘リ無理ナキニ於テハ治安ヲ紊ス虞ナキ限リ會社側カ支那側ニ對シ或程度ノ示威ヲ行フコトモ妥結促進ノ爲不可ナラサルヤニ認メラルルモ一方我方官憲側トシテハ飽ク迄本來ノ任務ヨリ逸脱セサル様戒心スヘク殊ニ領事館警察カ正式ニ差押ヲ行ヒ乃至ハ泰記側ノ差押ヲ公然掩護スルカ如キコトハ嚴ニ慎ムヘキ所ナリ尤モ泰記側ニ於テ獨力強制手段ニ訴フル如キ場合ニ於テハ或ハ邦人及財産保護ノ爲警察官派遣ノ必要生スヘキモ其ノ際ニ於テモ公然泰記側ノ行動ヲ援助スル如キ言動ハ之ヲ避クルノ要アリト存ス

以上ハ既ニ御氣附ノ所ト被存ラルルモ爲念

460 昭和10年7月31日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

満鉄が軍部の懲洩により龍烟鉄鉱の調査開始

持株讓渡交渉が再開される可能性があるため  
動靜注視方訓令

本省 8月7日後12時40分発

第一二九號(極秘)

一、開瀾炭坑買収方ニ付テハ我方ハ引續キ機會ヲ視ヒ居ル次第ナル處客年八月英支平等ノ原則ノ下ニ開瀾總局合辦新契約ノ締結ヲ見其ノ結果前記機會ハ稍々遠サカリタル觀アリタルコト既ニ御承知ノ通ナリ

二、然ルニ過般ノ北支事件一段落ヲ告グルヤ本邦新聞ハ一齊ニ我對北支投資計畫ナルモノヲ報道シ中ニハ開瀾炭坑ノ本邦側買収乃至ハ日英支合辦經營說ヲ傳フルモノアリタルカ右消息ハ支那側新聞紙ニモ轉載セラレ就中七月二十六日上海申報ハ社説ニ於テ同炭坑カ營業方面ニ於テ前途悲觀ノ狀態ニ在リ(客年末開平株主總會報告參照ノコト尙他ノ情報ニ依レハ昨年度ノ缺損ハ少クトモ四十萬元ニ達スル由)殊ニ頻發スル勞働爭議ニ顧ミ管理上ノ困難ハ極點ニ達シ居レリ今同ノ日本側消息ハ目下ノ所一方の希望ヲ反映スルニ過キサルヘキモ右ノ情勢ヨリ見レハ之カ實現ノ可能性ナシトセス云々ト論シ居レリ

天津 8月10日後発  
本省 8月10日後着

第一四八號(至急、極秘)

十日大石來訪鐵路局ニ於テハ本年五月末現在五百九十萬弗ノ積立金(六月以降九月迄ハ不況ノ爲積立不可能ナル由)アル處六月頃右ノ半分ヲ日本金ニ替置度旨稟請シタルニ對シ(初メテ承知セルコトニテ大石ノ遣口ハ甚タ遺憾ナリ)八日鐵道部ヨリ本積立金ヲ以テ期限前償還ヲ爲スヤ否ヤノ方針ハ未決定ナルモ青島ノ標準市場ヲ擾亂セサル様留意シ逐次積立金全部ヲ金ニ替置クヘキ旨指令アリタルヲ以テ之ニ基キ委員會ニ於テ支那側銀行ヘ二割五分、殘額ハ正金銀行ニ金預金ヲ爲スコトニ決議ノ上大石ヨリ正金ニ對シ年八分ノ利子ニテ引受方交渉ヲ命セラレタリトテ正金支店長ニ伴ハレ何分ノ指示ヲ得度シト申出テタルニ付不取敢正金ノ回答ヲ保留セシメ置キタルカ

一、正金トシテハ少クトモ半年分ノ國庫證券利子即チ百二十萬圓ノ預金ヲ拒否シ難キ立場ニアリ但シ利子ハ證券利子預金ニ對スルト同様三分五厘程度ナルヘシ

二、假令正金及鮮銀當地支店ヲシテ預金引受ヲ拒絕セシムル

局カ毎月正金ニ拂込ムヘキ利子充當金二十萬圓ヲ建設費ニ廻ハス方法モアルヘシ

以上諸點ヲ考慮ニ入レ對策ニ付考フルニ卑見左ノ通

(一)滿期又ハ期限前ニ於ケル支那ノ一部償還申出ニ對スル腹ヲ極メ積立金ヲ金ニ換ヘルコトヲ見送ルカ(此ノ場合ニハ正金ヲシテ預金ヲ引受ケシムルヤ否ヤハ左シテ問題ニアラサルヘシ)

(二)延長線問題等ノ解決ヲ急キ支那側ノ指令ヲ有名無實ノモノト爲スカ(此ノ場合ニハ支那側カ一部償還ヲ爲シ多少ノ誠意ヲ示スヤ否ヤニ依リ我方ノ膠濟線ニ對スル態度ハ強カレ弱カレ決シテ左右セラルルモノニアラサルコト位ハ言フヲ要スヘシ)

(三)不取敢ノ措置トシテ正金ヲシテ半年又ハ一年分ノ證券利子充當金タルコトヲ明カニシ預金ヲ引受ケシムルカ(此ノ間北支ノ政治情勢ノ新展開ヲ試ミ例ヘハ北支鐵道管理委員會ノ如キモノヲ作ラシメ南京ノ勢力削減ヲ計リ懸案解決ヲ計ルコトモ一案ナルヘシ)

右何分ノ御指示ヲ得タシ

支、南京、北平、天津、濟南ヘ轉電セリ

モ銀ニ對スル需要大ナル今日ナレハ支那側ハ上海市場ニ於テ中國銀行(近來著シク爲替銀行ノ性質ヲ帶ヒ來レリ)又ハ花旗、匯豐等外國銀行ヲ利用シ金ニ換ヘル方法ナキニアラス

三、積立金ハ其ノ都度支那銀行ニ分割預入シ一行當リ百萬圓程度ノ預金トシアルモノニシテ現ニ滿期ノ口約七十萬弗アリ他ハ此ノ一年間ニ逐次滿期トナルモノナリ

四、尙右葛委員長ノ意嚮ハ不明ナルモ大石及木村ノ意見ニ依レハ延長線ノ實現ヲ計リ度キ希望ハ依然トシテ棄テサルモノノ如ク積立金ノ半分ヲ限り金預金ヲ稟請シタルハ之ヲ裏書スルモノト認メラル

五、銀ヲ外國貨幣ニ投資スルハ支那金融市場ノ一般的傾向ニシテ(前記指令ハ最近ノ銀價暴落ニ刺戟セラレシモノト考ヘラル)之ヲ以テ直ニ南京側ノ延長線反對及償還方針ノ確定トハ看做シ得サルモ正金ヲシテ預金ヲ引受ケシムルコトハ我方ニ於テ一部償還ヲ認ムル一段階ト解釋セラ

六、延長線建設資金トシテハ本積立金ヲ再ヒ銀ニ換ヘシムルコトモ不可能ニアラス又積立金ハ證券利子ニ充當シ鐵路

463 昭和10年8月12日 広田外務大臣より 在青島田尻総領事代理宛(電報)

膠濟鐵路局の積立金に關し対応振り回訓

本省 8月12日後5時30分發

第七一號(極秘)

貴電第一四八號ニ關シ

國庫證券元利金償還前ニ於テハ鐵道收入ハ正金ニ預入ル、コト(山東懸案鐵道細目協定第十五條)トナリ居ル關係モアリ正金ヲシテ本件積立金預入ヲ拒否セシムルコトハ支那側ニ對シオカシナ感ヲ與ヘ山東鐵道ニ關スル我方窮局ノ目的達成上却テ不利ヲ來ス虞モアリ又正金ニ於テ本件積立金ノ預入ヲ受諾スルト否トハ國庫證券一部償還問題ニ關スル我方ノ工作ニ左シタル影響ナキモノト思考セラル、ヲ以テ本件ニ對シテハ正金側ヲシテ普通業務ト同様(我方ニ於テ本件ヲ前記國庫證券一部償還其ノ他政策的ノ問題ニ關聯シテ考慮シタルヤノ印象ヲ支那側ニ與フルコトハ禁物ナリ)利子等條件ニシテ折合フ限リアツサリ引受ケシメラレ差支ナシ當地正金ヨリモ貴地支店ニ對シ引受差支ナキ旨電報スル

尙本件ニ關スル貴地正金支店發本店宛電報中日本政府ハ借款返濟ヲ希望セス云々ト記載シ居ル處爾今斯種機微ノ關係アル事柄ヲ正金電報ニ記載セシメサル様注意置相成度當方ニ於テモ本店ニ注意ズミ將又大石ノ遣口ニ對シテハ嚴重戒告ヲ加ヘ置カレ度

支、北平、南京、濟南、天津へ轉電セリ

464 昭和10年8月20日 在中国若杉大使館參事官より  
 広田外務大臣宛(電報)

滿鉄による龍烟鉄鉱の鉱区調査開始に關シ外務側には何ら内報なき旨報告

北平 8月20日後発  
 本省 8月20日後着

第二八四號

往電第一一三號及往電第一一五號末段ニ關シ主トシテ軍側ノ指導ニ依リ龍烟鐵礦責任者張新吾ノ了解ノ下ニ滿鐵木原技師以下八名ノ調査員龍烟鐵礦調査ノ爲本日當地發同鐵礦方面ヘ向ヒタルカ調査期間ハ約一箇月ヲ要スル見込ナリ

在ベルギー特命全權大使 有田 八郎殿  
 在佛國特命全權大使 佐藤 尙武殿

開瀾炭礦ニ關スル件

本件ニ關シ八月十七日開平炭販賣合資會社城崎祥藏桑島東亞局長ヲ來訪ノ際概要別紙ノ通ノ談話取交サレタル趣ナルニ付御參考ノ爲右送付ス

本信宛先 在支大使、在北平參事官、南京、天津各總領事、在佛、白、英各大使、代理大使

(別紙)

昭和十年八月十七日桑島局長城崎祥藏會談要領  
 八月十七日開平炭販賣合資會社城崎氏桑島局長ヲ來訪會談要領左ノ如シ

「先ツ城崎ヨリ本年六月二十日頃「ネーサン」ノ代理來朝シ現地ニ於ケル日本人ノ言動等ニ顧ミ開瀾炭坑ノ前途ニ付危惧シ居ル趣ヲ以テ自分(城崎)ノ意見ヲ尋ネタルヲ以テ自分ヨリ開瀾炭坑ト日本炭業者トノ間ニハ一九一八年以來販賣協定モアリ左迄危惧ノ要無カルヘキ旨告ケ置キタリシ次第ナルカ今回同人(ネ)ノ代理」ヨリ自分ニ對

右ハ當館ニ對シテハ軍側及滿鐵側ヨリモ何等協議又ハ内報ナク本官ノ滿鐵社員トノ個人的接觸ニ依リ得タル情報ナルカ此ノ種北支ニ於ケル經濟的進出ニ關シ軍側トノ聯絡方ニ付テハ追テ稟申スヘシ

支、南京、天津へ轉電セリ

465 昭和10年8月24日 広田外務大臣より  
 在中國有吉大使、在中國若杉大使館參事官、在天津川越總領事他宛

開瀾炭鉱への日本側の經營参加が同鉱經營安定に資するとの見解を英側經營陣に示唆する  
 よう邦人關係者を指導について

亞一機密第一五二六號  
 昭和拾年八月廿四日

外務大臣 廣田 弘毅  
 在支特命全權大使 有吉 明殿  
 在北平大使館參事官 若杉 要殿  
 在天津總領事 川越 茂殿  
 在南京總領事 須磨 彌吉郎殿  
 在英國臨時代理大使 藤井 啓之助殿

シ至急天津ニ來ル様電報アリタルニ付不日出發ノ筈ナルカ本件ニ關シ貴局長ノ意見ヲ伺フコトヲ得ハ幸ナル旨申出ツ

二、右ニ對シ桑島局長ヨリ全ク個人トシテノ意見ナルカト斷リタル上英國人ハ極メテ實際的ナル國民ナル故開瀾炭坑關係英國側ニ於テモ北支ニ於ケル事態ノ推移ニ就テハ十分考慮シ居ルコトと思フモ同地方ニ於テ日本ノ勢力力最近大イニ増大シツアルコトハ御承知ノ通ナリ一方日本トシテハ支那民衆ノ利益ヲ増進スルコトヲ念トシ居リ從ツテ極メテ豐富ナル山西炭ノ「マーケッテイング」ノコトモ考ヘヤル要アリトナスハ當然ナルヘシ(斯ノ如ク支那民衆ノ利益ヲ増進スルコトカ同時ニ日本ノ對支商權ノ發展ヲ招來スル所以ナリ)然ルニ開瀾炭ト山西炭トハ其ノ山元値段ニ於テ非常ナル相違アルコト御承知ノ如クナルヲ以テ山西炭力市場ニ多量ニ出ツルコトトナレハ開瀾炭ニ對シテハ非常ナル打撃トナルヘシ敍上ノ如キ次第ニ付開瀾炭坑ノ前途ニ付テハ相當「シアリアス」ニ考ヘラルコト必要ナルヘク而シテ斯ノ如キ事態ニ處シ日本側ニモ開瀾炭坑經營ノ「ヴォー」ヲ有セシムルコトカ同

炭坑今後ノ安全辦トナルヘキヤニ思惟セラルル旨申聞ケタル處

三、城崎氏ハ右局長ノ意見ヲ謝シタル上右ハ極メテ機宜ノ示唆ト認ムルヲ以テ天津ニ赴キタル上ハ之ヲ自分ノ考トシテ「ネーサン」ノ代理ニ告ケ置クヘシト述ヘ居リタリ

466 昭和10年8月28日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

泰記對柳江の紛争問題に關し合併協議停滯のため 最後の通牒發出の上柳江炭鉱の接收実施について

天津 8月28日後發 本省 8月28日後着

第二三四號

本官發支宛電報

第一二六號

泰記柳江兩炭礦係(争)事件ニ關シテハ往電第五號(大臣宛第一二三號)ヲ以テ報告ノ次第アル處其ノ後柳江側ヨリ兩公司合辦案(前顯拙電參照)ヲ拒絕シ合同營業ナラハ商議ニ應スヘシト提議シ來レルニ依リ泰記ヨリ合同條件トシテ權

應セスシテ本月二十一日山元ヲ差押ヘ柳江ニ代リ採炭ニ從事セルカ差押ニ際シテハ何等妨害モナク工人モ引續キ平穩ニ從業シ居ル由ニテ地元公安局ハ特ニ邦人技師ノ保護ニ對シ留意シ居ル趣ナリ  
尙柳江側ハ泰記ノ報告ニ依レハ來ル九月八日上海ニ於テ株主總會ヲ開催スル趣ナル方同會議ノ結果ハ豫測シ難シトノコトナルモ柳江側ハ支那人顧問ヲシテ裏面ヨリ泰記ニ賣込方奔走セシメツツアル一方各方面ニ聲明書ヲ發送シ泰記今回ノ所爲ハ柳江ノ財産ヲ強奪シタルモノニ付法ニ據リ黑白ヲ決スヘシ云々ト述ヘ居レルニ付或ハ外交部邊ヲ通シ貴大使ニ訴ヘ出ルコトアルヤモ計ラレサルモ右ノ場合ハ當館ニ願出テ解決ヲ計ラシム様然ルヘク御應酬置キ相成度シ  
委細郵報  
大臣、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

467 昭和10年9月13日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道を河北省の省營鐵道として建設・經營する案を私案として商震同省主席に提示について

利ヲ泰記三、柳江一ノ割合トスルコト並ニ事業經營ハ泰記之ヲ擔當スルコトヲ主張シタルニ柳江側ハ條件苛酷ナリトテ承服セス更ニ轉シテ買収案ヲ持出シ來レルニ依リ泰記側ヨリ

(一)秦皇島貯炭(本年五月七日附機密第三五八號參照)ハ泰記ノ所有トス

(二)柳江公司買收價格ヲ銀三十萬元トス

(三)山元貯炭及鑛山用諸材料ハ柳江ノ所有トス

トノ三條件ヲ提出シタル處柳江側ハ上海ニ於ケル株主總會(七月七日)ニ於テ否決セラレタリトテ再轉シテ合同營業案ヲ提出シ來レル趣ニテ泰記側ニ於テハ斯ノ如キ有様ニテハ何時迄モ解決困難ト認メ本月十四日

(一)泰記三、柳江一ノ割合ニ依リ兩公司ノ合同營業ニ同意スルカ(但シ新公司ノ營業權ハ泰記ニ留保ス)

(二)柳江ノ鑛區及鑛山用諸材料其ノ他財産一切ヲ三十萬元ニテ賣却スルカ

ノ二者中孰レカ決定ノ上本月二十日迄ニ回答センコトヲ求メ若シ夫レ迄ニ回答ナキ場合ハ自由行動ヲ執ルヘキ旨申送レリ右ニ對シ柳江側ヨリ本月中回答延期方申出タルモ之ニ

天津 9月13日後發 本省 9月13日後着

第二六〇號(極秘)

客月末本官商震ト會見ノ際本官ヨリ南京及東京兩政府間ニ日支提携策究セラレツツアルヤニ承知シ居ル處自分ノ觀ル所ニテハ日支提携實現ノ成否ハ一ニ懸テ北支政情安定セリトノ安心ヲ日支兩國國民ニ與フルト否トニアリト信ス而シテ北支政情安定方策ニハ消極、積極ノ兩方面アリ消極策トシテハ支那側ニ於テ何處迄モ日本軍及何應欽間協定ノ趣旨ヲ確守シ藍衣社員及其ノ他此ノ種分子ノ政治的裏面工作ヲ北支ニ於テハ絕對ニ禁止シ以テ禍亂ノ種ヲ艾除豫防スルニアリ積極策トシテハ共存互惠ノ原則ニ從ヒ主トシテ經濟的日支合作ノ實ヲ舉クルニアリ前者ニ付テハ貴主席ニ於テモ充分御努力相成ルヘキヲ信シ居ル次第ナルカ之ト同時ニ後者ニ付テモ今後貴我雙方ニ於テ夫々研究ノ上前記ノ趣旨ニ依リ御互ニ隔意ナク相談スルコトト致度シ就テハ之ハ全ク自分一己ノ差向キノ考案ナルモ御承知(脫)華昌公司關係ノ滄石鐵道敷設ノ件ナルカ同鐵道カ全然河北省内ニ於ケル鐵路ナルニ顧ミ貴主席ヨリ南京政府ニ御相談ノ上本鐵道ヲ河



北省營鐵道トシテ建設經營スルコトノ承認ヲ求メラレ之カ  
實行方法ニ付貴省政府ト華昌トノ間ニ話ヲ進ムルコトトセ  
ラレテハ如何

省營鐵道ハ前例アルコトニモアリ中央政府ニ於テ強イテ御  
異議ナカルヘシト思考ス同鐵道ノ敷設カ河北省ノ經濟開發  
上如何ニ有效ナルヘキカハ説明ノ要ナク一方本件成立セハ  
北支ニ於ケル日支經濟工作ノ實ヲ舉ケタルモノトシテ北支  
ニ於ケル日支關係ノ安定ニモ資スル所大ナルモノアルコト  
言ヲ俟タサル次第ナルニ付是非御考慮ヲ煩度シト勸メ置キ  
タル處本月十一日商震本官ヲ來訪ノ節本件ハ御勸告ニ基キ  
自分トシテ是非トモ實現ヲ期シ度シト決意シ當時折好ク北  
平ニ滯留中ノ顧孟餘ニ就キ差向キ滄石鐵道問題ノ經過ヲ質  
シタルニ顧ハ華昌公司トノ間ニ借款契約アルモ其ノ間多少  
ノ問題存スル次第ヲ語り殷同ニ詳細問合方勸メラレ直ニ殷  
同ト會見同人トハ懇意ナルニ付實ハ滄石線省營案ヲ内議ニ  
及ヘル節殷ハ從來ノ經緯ヲ詳述セル上同蒲鐵路ヲ楯ニ取ラ  
ハ立廻リ次第ニテハ達成ノ見返アルヘシトテ激勵シ吳レタ  
ルモ自分トシテハ大分荷カ勝ツ様ニ思ハルト述ヘタルニ依  
リ本官ヨリ更ニ對中央ノ運動不安ナシトセサルニ於テハ寧

口直接蔣介石ニ對シ本官當初ノ勸告ノ趣旨ノ下ニ建議セラ  
レテハ如何ト諮リタル處妙案ナリトテ早速右電稟スヘシト  
申述ヘタリ

支、北平、南京へ轉電セリ

468

昭和10年9月26日

広田外務大臣より  
在中国有吉大使、在南京須磨總領事他宛(電報)  
事官

滄石鐵道建設問題に関する交渉を暫く見合せ  
るよう松岡満鉄總裁要請について

本省 9月26日後7時発

合第六八四號(極秘)

目下大連ニ在ル松岡滿鐵總裁ヨリ當方ニ對シ滄石鐵道問題  
ニ付テハ自分ノ考フル所アルヲ以テ暫ク交渉ヲ進メサル様  
セラレ度旨依頼越ノ次第アリ就テハ委細十月中間總裁上京  
ヲ待チ打合ノ所存ナルモ差當リ右御合置アリ度不取敢  
本電宛先 支、北平、南京、天津

469

昭和10年9月30日

在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

泰記對柳江の紛争問題に關し中国外交部が日

本側官憲の干渉を不当として公文により干渉

制止方要請について

上海 9月30日後発

本省 9月30日後着

第七六八號

本使發天津宛電報(泰記柳江兩炭鑛係争事件)

第二六號

貴電第一二六號末段ニ關シ

貴官御豫想ノ通り外交部ヨリ公文ヲ以テ申出テ來リタル處  
(九月十六日附南京發本使宛公信普通第三七八號參照)右公  
文ハ日本官憲ノ干渉ヲ不法ナリトテ之カ制止方ヲ要請シ居  
ル譯ニ付之ニ對シ事實ニ相違アリトカ又ハ我方干與ハ不法  
ニアラストカ反駁ヲ加フルコト無クシテ單ニ貴電末段ノ如  
ク關係人ニ於テ天津總領事館ニ願出テ解決ヲ計ルコト然ル  
可シト回答スルハ面白カラスト存セラルルニ付外交部公文  
ニ對シ反駁シ得ヘキ諸點御回報相成度シ

尤モ兩公司間ニ妥結ノ見込アラハ外交部公文ニハ暫ク回答  
ヲ見合セ置クト共ニ必要ニ應シ貴電末段ノ次第ヲ口頭ヲ以  
テ外交部等然ルヘキ筋ニ傳フルコトト致スヘク貴方ノ御希  
望冒頭貴電以後ノ成行ト共ニ御回電アリタシ(冒頭貴電ノ  
委細郵報未着)

北平へ暗送アリタシ

御裁量ニ依リ冒頭南京來信寫ト共ニ滿ニ轉報アリタシ

大臣、南京へ轉電セリ

470

昭和10年10月3日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華昌公司の優先権に疑義を挟む中国側態度に  
つき対処方請訓

南京 10月3日前発

本省 10月3日後着

第一〇六〇號(極秘)

貴電合第六八四號ニ關シ

一、本二日他用ヲ以テ會仲鳴ト會見ノ際會ヨリ滄石鐵道ニ關  
スル貴官累次ノ御申入ノ次第アリ自分ニ於テ充分研究ヲ

遂ケタル上顧部長トモ相談シ見タルカ華昌公司契約ハ到底鐵道部ニ於テ承認シ得サルモ同鐵道ノ必要ナルコト明カナレハ例ヘハ佛國側立場ヲモ考慮セル仕組ニ於テ又右建設ハ一切地方ニ委セス鐵道部カ切盛りスルコトシテ話ヲ進メ度ク來週早々貴官ヨリ直接顧部長(目下病氣引籠中)ニ御申入レ下サル間敷キヤト述ヘタルニ付本官ヨリ華昌公司ノ契約上ノ權利ニ疑義ヲ挾ムハ徒ニ事態ヲ複雜化セシムルモノト云フヘク此ノ根本ヲ承認セサレハ本官ト顧部長トノ會見モ何等益ナカルヘシト應酬シテ深入リヲ避ケタリ

二、石本ニ於テ支那ニ駐在シ新タニ對支進出方針ヲ畫策スルコトトナリシヤニテ同人本來ノ主張カ松岡總裁ニ反映セル結果冒頭貴電ノ如キ次第トナリタリトノ聞込モアル處何レニセヨ御訓達ニ依リ支那側ニ強調シ來レル我方主張ニ關シ俄ニ冷淡トナルカ如キハ本件達成上將又本契約ヲ利用シテ支那側ニ壓力ヲ加ヘ北支鐵道計畫ヲ我方ニ有利ニ展開セシメントスル考慮上且ツハ他ノ交渉案件ニ及ホス影響ヲモ考量シ寔ニ面白カラスト思考セラルル處支那側カ最近ノ態度以上ノ如クナルヲ以テ御方針御決定ノ上

ノ通牒(前記往電參照)ニ明示セル通り自由行動ニ出テタルモノニテ責任ヲ負フ必要無シト應酬シタル趣ナリ  
三其ノ後泰記ハ本年五月差押ヘタル秦皇島ノ貯炭(本官發大臣宛電報第一二三號冒頭參照)ノ搬出ヲ計畫シタルカ現貯炭場ハ開濶<sup>(開)</sup>ノ所有地ニシテ開濶<sup>(開)</sup>柳江間ニ貸借契約アル趣ニテ

開濶<sup>(開)</sup>ヨリ右石炭カ泰記ノ所有物タルコトヲ當館ニテ證明スルニアラサレハ搬出ヲ許容シ難キ旨申出アリタルニ付本官ハ現在貯炭ナル字句ヲ避ケ「泰記カ其ノ山元ヨリ採掘シ秦皇島柳江貯炭場ニ運ヒ來レル石炭ノ積出ニ對シ援助アリタシ」トノ趣旨ノ書面ヲ開濶<sup>(開)</sup>ニ送致シ先方ノ承諾ヲ取付ケ置キタリ

三當地方官憲ハ本件ノ圓滿ナル解決ヲ希望シ居リ過般省主席ハ殷汝耕外二名ヲ本官ノ下ニ差遣シ援助ヲ求メシメタルカ其ノ際本官ハ先ツ柳江ヲシテ本件交渉ヲ貴官(殷)等ニ一任セシメラルコト肝要ニシテ然ル後双方ヨリ案ヲ持寄り協議スルコト然ルヘキ旨申聞ケ置キタル處當方トシテハ本件ハ結局買収ニ依リ解決スルモノト觀測セラルルモ餘リニ我方ヨリ騒立ツルコトハ却テ足許ヲ見拔カル

ハ折返シ御同示相成度シ  
支、北平、天津へ轉電セリ

471 昭和10年10月3日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

柳江炭鉱接收後の状況および現地中国側当局との交渉経過について

天津 10月3日後発  
本省 10月3日後着

第二八一號

本官發支宛電報

第一五一號

貴電第二六號末段ニ關シ(泰記柳江兩炭鑛係爭事件)

一、泰記ハ往電第一二六號所報柳江炭鑛回收後日々三百噸乃至五百噸ヲ採掘シツツアル一方柳江鐵道(秦皇島柳江炭山間)ヲ運轉シ石炭ノ外一般乘客ヲモ運搬シツツアルニ對シ柳江ヨリ臨榆(山海關)縣長ヲ通シ採炭及鐵道使用中止方並ニ同公司ノ蒙レル損害ハ總テ泰記側ニ於テ負フヘキモノナル旨抗議シ來レルニ付泰記ヨリ右ハ八月十四日

ル懸念アリ旁先方ヨリ何等話ヲ持出シ來ル迄當分事態ヲ靜觀スルコト然ルヘキヤニ思考シ居レリ尙冒頭貴電中段外交部ニ對シ反駁シ得ヘキ點郵送ス

冒頭貴電ト共ニ滿ニ轉電シ、南京來信寫郵送セリ  
大臣、南京、北平へ轉電セリ

472 昭和10年10月11日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道建設事業における日仏協調方を仏國財團關係者パブロフスキー提案について

南京 10月11日後発  
本省 10月12日前着

第一一八號(極秘)

往電第一〇六〇號ノ一ニ關シ(滄石鐵道問題)

十一日「パブロフスキー」來訪顧孟餘ニ於テ貴官ト最近會談ノ用意アル旨顧自身ヨリ聞及ヘルカ支那側ハ同鐵道ヲ鐵道部限りニテ建設ノ意嚮ナルカ如シ即チ榆次大谷間(二十八軒)鐵道建設ニ使用スヘカリシ材料(少クトモ約百軒ヲ建設スルニ足ル由)竝ニ約六十臺ノ機關車餘リ居ルヲ利用シ

且ツハ最近二、三年間各鐵路ノ收益遞増ノ傾向アルト不況ノ爲各國重工業會社カ手持品ノ「ダンピング」ヲ行ヒ居ル形勢トニ乘シ原則トシテ他國ノ力ヲ借ラス本鐵道ノ建設ヲ計畫スルコトナルカ如シ但シ自分ノ顧ヨリ得タル印象ニ依レハ日佛「シンヂケート」ノ事業トスルニ於テハ支那側ニ尙考慮ノ餘地アル様ナリト述ヘタルニ付

本官ヨリ顧トノ話合ハ支那側カ先ツ我方契約ヲ認メ(サ)ル限リ意味無シト認メ暫ク形勢ヲ見送り居ル次第ナリト答ヘタルニ「パ」ハ支那側ハ一九二八年時ノ佛國公使「マルテル」ノ斡旋ニ依リ成立セル「マルタン」契約ト同様華昌公司ノ契約ヲモ認メ難シトスルニ決シ居ル模様ナレハ何トカ交渉ノ上佛國ハ主トシテ材料ヲ賣込ミ日本ハ會計監督、會計主任、運輸顧問等ヲ入ルル位ノ「コントロール」ヲ持タルコトト致度シト述ヘタルニ付本官ヨリ「マルタン」契約ニ疑點ノ存スル次第ハ嘗テ會中鳴等ヨリモ承知シ居ルモ華昌公司ノ契約ニハ間然スル所無ク既ニ外交部ヲモ通シ支那側ニ正式申入濟ナリト簡單ニ應酬セルニ「パ」ハ何レニスルモ餘リ永引クニ於テハ他國殊ニ英國側カ材料供給等ニ乗出シ來ルヤノ氣配モアリ至急本件ヲ解決シ度キモノナリ

領事 岩井 光次郎

特命全權大使 有吉 明殿

龍煙鐵礦並西景山製鐵所ニ關スル件

來滬中ノ龍煙鐵礦張新吾氏ヨリ左ノ通り内話アリタルニ就キ何等御參考迄ニ報告申進ス

記

龍煙鐵礦並西景山製鐵所ノ開發ニ關シテハ既ニ滿鐵ト密接ノ聯絡ヲ採リツツアルガ、現鞍山製鐵所ノ顧問技師ベリン、マーシャル氏ハ曾テ龍煙ノ顧問技師トシテ龍煙ノ事情ニ精通シ居ルヲ以テ技術上ノ研究ニハ頗ル好都合ナリ、滿鐵ハ既ニ二回ノ現地調査ヲナシ其ノ報告書モ近々完成スル筈ナレバ、右報告ガ松岡總裁ニ呈出サルル頃ヲ見計ヒ大連ニ赴キ開發ノ具體的相談ヲ進メ度ク準備中ナリ

龍煙側ノ計畫ハ既設ノ二百五十噸鎔礦爐ノ外、更ニ年產四十萬噸ノ製鋼所ヲ新設スル案ナルガ、南京政府計畫中ノ中央製鋼所ガ礦石並ニコークスノ供給不如意ナルニ反シ西景山製鐵所ハ礦石コークスニ十分ノ供給力アルト同時ニ、西景山鐵廠ハ岩盤上ニアレバ地下水カラ來ル濕氣全然ナク從ツテ製鐵用炭料ヲ節約シ得ルガ故ニ銑鐵鋼鐵等ノ生產費ハ

ト繰返シ之カ爲態々來寧セリト述ヘ居タリ  
支、北平、天津へ轉電セリ

473 昭和10年10月14日

在中国岩井(光次郎)大使館商務參事官代理より  
広田外務大臣宛

龍煙鉄鉱の日中共同開発問題に関する中国側  
関係者の内話について

商機密第三三一號

昭和十年十月十四日

(10月22日接受)

在上海商務參事官代理

領事 岩井 光次郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年十月十四日付大機密第一七〇號

特命全權大使有吉明殿宛寫送付

龍煙鐵礦並西景山製鐵所ニ關スル件

大機密第一七〇號

昭和十年十月十四日

上海駐在商務參事官代理

他地方ノ工廠ト比較シ著數ク割安ナルナリ

龍煙ヲ日支合辦事業トスル件ニ就テハ、先般北平ニ靜養中ナリシ鐵道部長顧孟餘氏トモ數回相談ヲ重ネテ汪行政院長ノ内諾ヲ得タレバ滿鐵側トノ條件サエ出合ヘバ事業ノ開始ハ急速ニ實現ヲ見ルベク、又龍煙ノ株式中若干數ハ上海ニ在ルガ之ハ買収出來ル見込立テリ。從來龍煙ノ事業ニ最大難點トサレシ平綏線ノ運礦鐵道賃金ノ低減並ニ將來製品ノ支那全土ヘノ運送鐵道賃金割引ニ就テモ既ニ顧部長ノ了解ヲ得タリ

以上

本信寫送附先 本省 上海 南京 北平 天津 在滿大使館  
使館

474 昭和10年11月13日

広田外務大臣より  
在中国有吉大使、在中国若杉大使館參事官、在南京須磨總領事他宛

經濟的側面から滄石鐵道よりも膠濟鐵道および平綏鐵道の延長線建設を優先すべしとの松岡満鉄總裁の意見について

付記 十一月六日、東亞局第一課作成

「桑島東亞局長滿鐵石本理事會談ノ件」

亞一機密合第二〇一〇號

昭和拾年拾壹月拾參日

外務大臣 廣田 弘毅

在支特命全權大使 有吉 明殿

在北平大使館參事官 若杉 要殿

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿

在天津總領事 川越 茂殿

在青島總領事代理 田尻 愛義殿

滄石鐵道山東鐵道延長問題等ニ關スル松岡滿鐵總裁ノ  
意見ニ關スル件

過般支那及滿洲方面出張中ノ守島書記官ハ大連ニ於テ松岡  
滿鐵總裁ト滿鐵ノ對支活動問題ニ關シ種々懇談スル所アリ  
タルカ就中北支鐵道開發問題ニ關スル會談要領左記ノ通ナ  
リシ趣ナリ右貴官御含迄通報申進ス尙此等問題ニ付テハ本  
十一月二十日頃同總裁上京ノ折更ニ當方ト打合ノ手筈ナリ

記

一、滄石鐵道

滄石鐵道ノ爲ノミノ支出ト目スルコトハ當ラサルヘク同港  
ノ改良ハ北寧、平綏、津浦各鐵道ヲモ潤ホスモノニシテ結  
局此等交通網全部ノ爲メノ支出トシテ滄石鐵道建設費トハ  
觀念上別箇ノ取扱ヲ爲スヘキモノト考フル旨竝滄石鐵道問  
題ニ付テハ從來ノ經緯モアリ今急ニ支那側トノ話ヲ打切  
ルコトハ不可ナルノミナラス支那側ヲシテ兎モ角我方ノ權利  
ヲ認メシムルコトハ我方力建設ニ着手スルト否トハ別問題  
ナルヲ以テ引續キ出先外務官憲ヲシテ支那側ニ對シ華昌公  
司ノ權利ヲ承認スヘキコトヲ要求セシムルコトト致度旨述  
ヘ同總裁ハ之ニ同意シ且近ク上京ノ際篤ト打合ハスヘキ旨  
言明セリ

二、山東鐵道延長及平綏鐵道延長

同總裁ハ前述ノ如ク滄石鐵道ヨリモ寧口山東延長及平綏延  
長線ニ着目シ居ル次第ナルカ右兩者ノ孰レヲ先ニスヘキカ  
ニ付テハ猶ホ研究ノ要アリト述ヘタルニ對シ守島書記官ハ  
山東線延長ノ重要性ハ充分認メ居ルモノナルモ同問題ニ付  
テハ山東鐵道國庫證券返還問題竝延長線建設權ニ關聯スル  
對支借款團トノ機微ナル關係アリ外務當局トシテハ此等ノ  
事情ヲ考慮ニ容レ極メテ慎重ニ處理シツツアル次第ニテ滿

松岡總裁ハ滿鐵ノ對支事業資金不充ナル次第第二モ顧ミ滄  
石、山東延長、平綏延長ノ三鐵道計畫ノ緊急ノ程度ヲ比較  
考量ノ結果滄石線ヨリモ他ノ二線ヲ先ニ建設スルコト適當  
ナルヤニ認メ（元來同總裁ニ於テハ滄石線ヨリモ他ノ二線  
ヲ必要ト認メ居タル次第ナルモ當時ノ狀況上右二線ニ關シ  
テハ進出ノ見込ナカリシヲ以テ不取敢滄石鐵道契約ヲ成立  
セシメタル事情ナル處最近北支ノ形勢變化シ滄石鐵道ニ付  
テハ日本ヲ差シ措キ支那側乃至ハ佛國側力建設スルコト先  
ツナカルヘク從テ此ノ儘放任スルモ多量ノ山西炭カ市場ニ  
出テ來ル形勢トハ當分ナラサルヘク（元來我方トシテハ山  
西炭ヲ「コントロール」シ得ル爲滄石鐵道ヲ建設セムトス  
ルモノナリ）資金關係ヨリ言フモ滄石鐵道ト離ルヘカラサ  
ル大沽築港ノ工事費カ極メテ「エキスペンシヴ」ナル事情  
アリ結局滄石鐵道ハ山東延長、平綏延長ヨリ遅ラスコト可  
然シトノ一應ノ結論ニ達セル由ナリ）過般重光次官ニ對シ  
滄石ノ件ハ差當リ支那トノ交渉ヲ進メサル様依頼セルモノ  
ニシテ（九月下旬往電參照）決シテ他意アル次第第二非ス又  
上ハ一應研究ノ結果ニテ尙詳細研究ノ上方針ヲ確定シ度考  
ナリト述ヘタルヲ以テ守島書記官ハ大沽築港ノ費用ヲ以テ

鐵カ本問題ニ關シ勝手ニ對外交渉ヲ爲スコトハ面白カラス  
又本事業ハ滿鐵ヲシテ出資セシムヘキヤニ付テモ猶研究ヲ  
要スル次第ナル旨述ヘ置キタリ

本信宛先 支、北平、南京、天津、青島

（付記）

桑島東亞局長滿鐵石本理事會談ノ件

昭和十年十一月六日 曾禰記

本日滿鐵石本理事（先般滿鐵職制改正ノ結果天津事務所擔  
當ニ決セリ）東亞局長ヲ來訪ノ際會談要領左ノ如シ

一、北支ニ對スル經濟活動

局長ヨリ石本理事ノ計畫ニ付質問セルニ對シ同理事ハ目  
下ノ北支人心ハ極度ニ恐怖狀態ニ在リ我方ヨリ手ヲ差シ  
延フルモ之ニ應スル氣配ナク自分ハ軍側ニ對シ今少シク  
支那人心ニ安心ヲ與ヘサル限り經濟工作ノ施シ様ナキ旨  
進言シ居ル次第ナリト語レリ

二、經濟提携

支那側トノ經濟提携ニ付テハ從來ノ如ク漫然ト合併事業  
ヲ經營スルコトカ顧問ヲ要處ニ配スルトカニテハ成功覺

束ナク更ニ系統的計畫的ノモノタルヲ要ス(石本)

### 一、棉花改良

棉花改良ニ付テモ徒ラニ諸種ノ改良種ヲ支那農民ニ栽培セシムルハ纖維不揃ヒノ作物ヲ得セシムルニ止マリ紡績ニモ布團棉ニモ買手ナキコトナリ支那農民ヲ失望セシムルコトトナルヘシ(之等ノ點ニ付テハ通州滿鐵農事試驗所ニ照會アリ度)依テ紡績側トモ豫メ連絡ノ上引取り可能ナル單一種ノ改良棉ヲ栽培セシムルヲ要ス(石本)

### 二、長城炭坑及龍烟鐵鑛

長城炭坑ニ付テハ當初軍側ヨリ有事ノ際現地保護ノ爲メノ出兵ヲ容易ナラシムル意味合ヨリ滿鐵ノ買収ヲ獎メラレタル關係アリタルモ今トナリテハ右ノ如キ出兵ノ爲メノ口實モ必要ナキニ至レル一方泰記側カ柳江炭坑ニ對スル強力措置ニハ相當アキレタルニ付滿鐵ハ長城炭坑ニ何等興味ナキ旨軍側ニ斷ハリ置ケリ(石本)

龍烟ニ付テハ着々調査遂行中ナルモ何處ニテ精煉スヘキヤノ問題モアリ旁當分ハ主トシテ外國資本ノ介入ヲ排除スルニ止メ接極的ニ經營ニハ乗り出ササル意嚮ナリ(石本)

### 第一二七〇號

往電第一一一八號ニ關シ(滄石鐵道問題)

十五日「パブロフスキー」本官ヲ來訪シ會仲鳴ト其ノ後數回話合ヒタルカ會ヨリ先ツ支那銀行團ヨリ百五十萬元ヲ地均費トシテ支出シ材料ハ一切「パ」ヨリ供給スルコト然ルヘシト述ヘ假契約書作成方申出テタルニ付自分ヨリ日本トノ協同カ必要ナルヘシト答ヘ置クト共ニ在巴里ノ本社ニ請訓セル處日本側トノ話合ヲ着ケタル上支那側申出ニ應シ差支ナシトノ回訓十二日接到セリ一方自分ノ材料供給契約ハ孰レモ履行セラレ對獨借款モ滞リナク支拂ハレ本年六月支拂フヘカリシ金ニ付支那側ヨリ不足ノ故ヲ以テ六箇月間延期方豫メ申出テ本社モ承知セルニ拘ラス期間間際ニ至リ契約通り金ヲ支拂ヒ來レル程ニテ是等ノ剩餘金ヲ更ニ他ノ鐵道ノ建設等ニ流用セシムルコト然ルヘク英米等モ動キ出ス危險アリト述ヘ日本側意見ヲ尋ネタルニ付

三、本官ヨリ日本ハ滄石鐵道ニ關スル華昌公司契約實行方申入レ居ルモ未タ支那側トノ意見一致セサル次第ナルカ一方北支ヲ見ルニ支那側ノ組織及財政措置等當ヲ得サル爲

### 一、興中公司

十河氏カ就レ首腦部ニ座ルコトナルヘキモ未タ理事長ニ決定セル次第ニハ非ス唯最近軍側ヲ交ヘタル松岡總裁及十河氏會談アリタル如ク其ノ結果大体十河案ノ如ク役立方ニ松岡總裁モ同意セルヤニ觀測セラル但シ役立ハ本年中ニ取運ヘハ早キ方ナルヘシ尙公司ノ活動ハ地域のニハ主トシテ西南ニ内定セルセ<sup>モ</sup>ノ如ク事業計畫ニ付テハ石本ノ私見トシテハ大豆特產物ノ仲介等ヲナスコト可然シト認メ居ルモ實際問題トシテハ軍側ノ意嚮ニ從ヒ西南摘助殊ニ武器ノ供給(信用供與ノ代價トシテ鑛山等ニ擔保ヲ設定ス)ヲ行フニ非サヤト思ハル(石本)

475

昭和10年11月15日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道建設事業に關するパブロフスキーの  
日仏協調提案に対し華北政情を踏まえ日本を  
無視しない形で進むよう同人指導について

南京 11月15日後発  
本省 11月15日後着

安定ヲ缺キ居ル實情ナレハ本件計畫ヲ早急實施スルコト

ハ機宜ニ適セスト認メ居レリ佛國側モ今少シク待チ日支ノ話合ヒ成立セル上ニテ我方ニ「アブローチ」シ來ルコト然ルヘシト思考ス支那ハ英米等ニ依存シ諸計畫ヲ實行セントシ居ルヤニモ認メラルモ結局ハ日本ノ指導ヲ要スヘク英米モ右事情ヲ無視セハ何レハ手ヲ燒ク結果ヲ招クヘシト應酬セル處「パ」ハ御趣旨ハ了解セルモ佛國側ハ遊資ノ投資ヲ考ヘサルヘカラス勢ヒ日本側ノ態度ノ至急決定ヲ希望スル譯ナリト述ヘタル上自分等ハ他ノ計畫例ヘハ重慶、長沙間鐵道建設等ニ付日本側ト協調ノ用意アリ等ト附言シ居タリ

支、北平、天津へ轉電セリ

476

昭和10年11月27日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道建設への日本側参加は材料供給のみ  
との顧孟余鐵道部長提案に対し華昌公司の敷  
設優先権確認が先決と反駁について

第一三一八號

往電第一二七〇號ニ關シ

廿七日他用ヲ以テ顧孟餘ト會見ノ際顧ハ滄石鐵道ノ件ニ付豫テヨリ貴官ト會談ノ機會ヲ得度シト思ヒ居タルカ華昌公司ノ契約ハ假契約ナルノミナラス何澄カ勝手ニ爲シタル調印ハ認メ難ク右ハ曩ニ外交部ヲ通シ日本側ニモ傳達濟ナリ唯貴官カ會仲鳴等ニ對シ右ハ事實ニ反ストテ種々日本側立場ヲ御主張アリタルニモ顧ミ此ノ際同契約ノ效力論ヲ上下スルコトナク實質的ニ日支間ニ本鐵道建設ニ關スル具體辦法ヲ考慮致度ク元來本鐵道ノ建設ニハ左迄大ナル經費ヲ要セス支那側ノミニテ建設シ得ル程ナレハ日本側ヨリハ材料ノミヲ供給セラルルコトモ一案ナルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ同契約カ完全ニ成立シ居ル所以ヲ詳述セル上支那側カ此ノ點ヲ先ツ認ムルニアラサレハ到底話合ヲ進ムル譯ニハ行カスト應酬セルニ顧ハ北京政府以來同鐵道ニ關スル所謂契約ハ七、八個モアル狀態ニテ内容何レモ如何ハシク「マルシヤン」契約ノ如キハ其ノ一例ナリト述ヘタリ依テ

南京 11月27日後發  
本省 11月28日前着

佛、支側カ之カ建設ニ着手スルコト無キ様監視スルニ止メ我方ノ先ツ實行スヘキ鐵道トシテハ山東延長線ヲ第一次トスルコト經濟的ニ見テ妥當ナリト考ヘ來レル次第ナルモ  
(イ)今春以來北支政情ノ急激ナル變化ニ伴ヒ自治工作ノ具體化ノ一方法トシテモ亦現今ノ如ク政局上ノ不安繼續シ一步ヲ誤ラハ重大危機ヲ醸スヘキ惧アルカ如キ情勢ニモ顧ミ北支政權ヲシテ經濟的方面ノ實行ニ專ラ力ヲ注カシメ殊ニ鐵道ヲ日本ノ援助ニ依リ建設セシムル様仕向クルコト目下ノ行詰リ打開策トシテモ極メテ時宜ニ適スルモノト認メラルルニ依リ主トシテ政治的見地ヨリ寧ロ此ノ際滄石ヲ至急實現セシムルノ必要痛感セラレ又

(ロ)經濟的見地ヨリ見ルモ山西炭統制策以外開港トノ關係ヲ考慮ニ容レ井陘ノ「コークス」炭ヲ安價ニ搬出スルニ力ヲ注クコト緊急且ツ有意義ナルヤニ考ヘラレ  
(ハ)大沽築港ハ經費ニ付テハ專門家ノ大体ノ見當ヲ聞クニ順當リ約十圓ト認メラルル趣ナルニ依リ第一期計畫年三百萬噸トシテ約三千萬圓トナリ往電第三六二號ノ案

本官ヨリ「マルシヤン」契約ノ無根據ハ會仲鳴モ承知シ居ル程ニテ其ノ他ノ契約ハ如何ナル性質ノモノナルカ知ラサルモ華昌公司ノ契約ハ右ト同列ニ論スヘカラス貴見ハ眞向ヨリ我方契約上ノ權利ヲ無視スルモノニテ到底話合ヲ進ムル基礎トハナラストテ契約ノ確認カ先決問題ナル旨繰返シ力説セルニ顧ハ當方ニ於テモ更ニ研究ヲ續クヘキカ自分ノ意見モ日本政府ニ御傳達アリ度シト答ヘタリ  
支、北平、天津へ轉電セリ

477 昭和10年11月30日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華北の急迫せる政情の打開策として膠濟鐵道延長線等よりも滄石鐵道の建設事業を優先して實現すべき旨意見具申

天津 11月30日後發  
本省 11月30日夜着

第三六五號(極秘)

十一月十三日附亞一機密合第二〇一〇號貴信ニ關シ  
一、本官トシテモ元來滄石ニ對シテハ差向キ日本ヲ差置キテ

實現乃至自治政權樹立ノ場合同電末段「ノ通り少クトモ年三千萬弗ハ捻出シ得ヘキニ付其ノ大部分ヲ二、三年計畫ニテ先ツ滄石及大沽港建設ニ充テシメ我方トシテハ材料供給ノ形ニ依ル出資及工事請負(滿鐵ヲシテ行ハシム)ニ依リ之ニ參加スルコトトセハ政局安定ニ資スルコト頗ル大ナリト信ス

二、次ニ平綏線ノ延長及改良ハ滄石及大沽港完成後第二次事業トシテ之ニ取掛ルコト然ルヘク山東延長線ニ付テハ河北省ノ政治的變革後ハ山東ニモ政治的變化ヲ生スヘキコト必然ノ勢ナルニ鑑ミ情勢ノ變化ニ應シ之モ山東省ノ事業トシテ行ハシムル方最適當ナルヤニ思料ス  
支、北平、南京へ轉電セリ

478 昭和10年12月4日 在天津川越總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華北工作の緩和策として滄石鐵道および天津外港建設を華昌公司の敷設優先權に拘泥せず  
省營事業にて實現方意見具申

天津 12月4日後発  
本省 12月4日夜着

第三七二號(至急、極秘)

有吉大使ニ於テ南京側ニ對シ北支安定案ニ付御交渉相成ル際ノ御參考トシテ現地ノ實狀ニ立脚セル卑見左ノ通

(一)北支自治運動ハ其ノ性質相當根深キモノアリ假令一時的ニ休止ヲ見ルトモ再ヒ種々ノ形態ヲ取りテ活動ヲ始ムヘキ性質ノモノニシテ右ハ政情ノ安定ヲ妨ケ經濟的二モ惡影響尠カラス

(二)斯ル運動ヲ終熄又ハ緩和シ得ヘキ最效果のノ方策ハ鐵道、港灣等ノ建設具體的ニ申サハ滄石鐵道及天津外港ノ建設ヲ實行シ次ニ山東及平綏鐵道ノ延長ニ取掛ルニアリ而シテ滄石及天津外港建設ハ往電第三六五號ノ趣旨ニ依リ之ヲ省營事業トシ(華昌公司ノ權利ノ效力ニ關スル形式論ノ如キハ必スシモ固執ノ要ナシ)  
南京<sup>(2)</sup>ノ掣肘ヲ受ケス省自体ノ資金ヲ以テ之ヲ行ハシメ我方ハ工事請負(事業自体ヲ眞面目ニ進行セシムル上ニ是非必要ナリ)及技術供給並ニ材料提供ニ依リ之ニ參加スルコトヲ條件トスルヲ要ス

(三)滄石及天津外港建設ノ着手ヲ見タル曉ハ地方民心安定シ自治運動モ氣乗薄トナルヘク此ノ間ノ機微ナル關係ハ滿洲事變前適當ナル時機ニ吉會及長大線等ノ建設問題解決セラレタリト假定シ其ノ場合滿洲ノ情勢如何ニナリタルヤニ想到セハ思半ハ二過クルモノアルヘク又經濟的二觀ルモ

(イ)我方トシテハ材料供給ニ依ル出資以外ニ資金ヲ我方ヨリ出ササルコト而モ右材料供給ハ直ニ内地工業ヲ潤スト共ニ右事業ニ對スル我方ノ發言權ヲ確保スルコトトナリ

(ロ)<sup>(3)</sup>多數ノ農民カ職ヲ得ル結果農村人心ニ好影響ヲ與フルノミナラス其ノ結果地方ノ購買力ヲ増シ我方市場ノ擴大ニ資スルコト大ナルヘク

(三)<sup>(4)</sup>鐵道完成ノ曉沿線ノ受クヘキ經濟的利益多大ナルヘキ上井陘「コークス」ノ搬出ニ依リ開灤ノ獨占市場ニ喰込ム等廣汎ナル利益ヲ豫期シ得ヘシ

(四)最後ニ日本ノ對支政策ハ最早我方ノ利益擁護増進等ノ標語ヲ振鬚ス普通ノ外交的政策ヨリ一步ヲ進メ眞ニ支那民衆ノ爲支那ノ政治行政改善ニ日本トシテモ踏込ンテ努力

スルコトヲ根本義トスヘキ時期ニ到達セルモノト信ス就テハ適當ノ機會ニ右ノ趣旨ヲ天羽聲明ノ繼續(今度ハ今少シ上手ニ願度シ)トシテ宣明セラレテハ如何カト存ス尙右政策ノ實行ニ當リテハ支那民衆カ侵略ノ疑惑ヲ懷カサル様ノ方法ニ依ルコト及九國條約等ニ引懸ケ外國側ヨリ非難ヲ受ケサル様周密巧妙ナル手段ヲ執ルコト肝要ナリト思考ス

(轉電先脫?)

~~~~~

479 昭和10年12月13日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

日本側の柳江炭鉱接収が中国側排日boycott
ト氣運を生起しつつあるので紛争の円満解決
促進に向け泰記側関係者善導方意見具申

上海 12月13日夜発
本省 12月13日夜着

第一一〇〇號

天津發本使宛電報第一五一號ニ關シ(泰記柳江兩炭坑係争事件)

旨劉ニ傳達方申聞ケ置キタリ)

(2)石門炭田ニ對スル工作ハ北支ニ於ケル我方ノ經濟的勢力好轉ノ「テストケース」トシテ有意義ナルカ勿論乍ラ

他ノ工作ニ對シ惡例トナルカ如キハ嚴ニ之ヲ避クルヲ要シ殊ニ買收額等當事者ノ些細ノ利益ノ爲實力ニ依リ不法行爲ヲ默認スルニアラサレハ目的ヲ達シ得ストスレハ本件工作ハ充分之ヲ善導スルコト必要ナルヘシ而シテ目下ノ事態ニ於テ本件ノ爲「ボイコット」流行ノ端ヲ開クカ如キハ頗ル面白カラサルニ付本省ニ於テモ泰記關係會社首腦部ニ對シ從來ノ行懸及些細ノ利益ヲ捨テ大局の見地ヨリ至急本件ノ圓滿解決ヲ計ル様御説示相成ルト共ニ天津總領事ニ對シテモ右様ノ方針ニテ本件解決促進方御訓令相成様致度シ

三、尙本件ニ關スル外交部來翰ニ對シテハ十月十一日附天津發本使宛機密第二二號ニ基キ回答方一應考慮セルモ「レール」取外シ損害賠償ニ應セサル爲ノ接收領事館警察ノ干與ノ點等ノ外前記配布ノ印刷物ニハ黑山鑛區カ柳江ニ屬スル旨ノ河北省建設廳ノ四月二十九日附指令ヲ受ケ居ル旨ヲ記載シ居ル次第モアリ公文ヲ以テ我方ノ態度ヲ正當ナリト主張スルヲ憚ル點モ無シトセス旁同答ヲ差控ヘ居ル次第ニ付爲念申添フ

支、天津、南京へ轉電セリ

記

一、山東鐵道問題

守島書記官ヨリ國庫證券問題及延長線問題ニ關シ外務省側ニ於テ從來ヨリ企圖シ且工作シ居ル次第ヲ委細説明シ滿鐵ハ右外務省側企圖及工作ノ障害トナルカ如キ何等ノ行動ヲナササル様注意アリ度差當リ同社トシテハ延長線ノ各種路線ノ比較研究等技術的方面ヲ内密調査研究シ外務省側ノ參考ニ供スルニ止メラレ度(將來或ハ材料借款位ヲ引受ケテ貰フコトトナルヤモ知レサルモ之ハ外務省側工作ノ今後ノ發展如何ニ依ル)ト述ヘタル處同總裁ハ全然同感ナル旨ヲ答ヘ滿鐵トシテハ右御趣旨ニ副フヘシト述ヘタリ

二、滄石鐵道問題

守島書記官ヨリ(一)過般大連ニ於ケル同總裁トノ會談ニ際シ陳述セル所(亞一機密合第一〇一〇號公信)ヲ繰返シ併セテ(二)滿鐵側カ嘗テ本問題ニ關シ外務省側ニ提出セル意見ノ未熟ナルコト滿鐵側カ迂滑ニ本件對支交渉ニ關與セムトスルノ危險ナルコト(昭和九年十二月七日附亞一機密合第一七二三號公信)等ヲ指摘シタル上更ニ(三)最近ノ

480

昭和10年12月19日 廣田外務大臣より
在中国有吉大使、在南京須磨總領事他宛
事官 在天津總領事

滄石鐵道および膠濟鐵道問題に対する外務省
側方針を松岡滿鐵總裁へ説明について

亞一機密合第二一八三號

昭和十年十二月十九日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國特命全權大使 有吉 明殿

在中華民國大使館參事官 若杉 要殿

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿

在天津總領事 川越 茂殿

在青島總領事代理 田尻 愛義殿

滄石鐵道山東鐵道延長問題等ニ關スル松岡滿鐵

總裁ノ意見ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩二十一月十三日附亞一機密合第二〇一〇號往信ヲ以テ通報シ置ケル處今般上京ノ松岡總裁ト當方係官トノ間ニ概要左記ノ如ク意見交換並打合ヲ爲シタル趣ナルニ付委細左記ニ依リ御了知相成度

北支新情勢ニ鑑ミ北支ニ於ケル鐵道建設トシテハ先ツ滄石線ヨリ着手スル必要アリトノ意見モアル(十一月末在天津川越總領事來電)次第ヲ告ケタル處同總裁ハ右(二)ニ付テハ之ヲ肯定シ(三)ニ付テハ右ノ如キ意見ハ政治的考慮トシテ充分諒解シ得ル所ナルモ何分ニモ資金ニ限リアル目下ノ狀況ニテハ業務上ノ問題トシテ第一番ニ滄石線ノ建設ニ着手スルコトハ考物ト思考スル旨ヲ答ヘ仍ホ意見交換ヲ續ケタルカ結局本件鐵道建設ノ時期及山東、平綏延長線トノ順序等ハ北支情勢ノ推移ニモ照應シ更ニ考慮スルコトトスル一方華昌公司ノ權利確認方ニ關スル外務省側ノ對支交渉ハ此ノ際特ニ之ヲ中止スルノ要ナク差當リ大体從來通ノ「ライン」ニテ進ムコト(尤モ北支情勢ノ進展等ハ適當考慮ニ入ルルヲ要ス)可然トノ趣旨ニ意見一致セリ

三、平綏鐵道延長問題

本件ハ是非實現シ度旨意見合致セリ依テ守島書記官ヨリ右實現方ニ關シ滿鐵側トシテハ差當リ技術的、經濟的方面ヲ研究アリ度旨希望シ置ケリ(尙同書記官ヨリ東亞興業側ノ平綏鐵路借款續借優先權、從ツテ延長線敷設ニ對

スル一種ノ足掛リニ言及セル處松岡總裁ハ右ハ初耳ナル
カ結構ナリト述ヘ居タリ

四、滿鐵ト外務省トノ連絡問題

本問題ニ付テハ過般大連ニ於ケル會談ニ際シテモ意見ノ
交換アリタル次第ナルカ今後斯種外交ニ關係アル問題ニ
關シ外務、滿鐵間ニ意見交換ヲナスノ要アル場合ニハ双
方ノ責任アル者(例ヘハ滿鐵側ニテハ總裁及總裁ノ指示
スル理事又ハ社員、尙松岡總裁ハ右理事又ハ社員トハ山
崎、石本、牛島及東京支社岡田邊リヲ考ヘ居ル次第ナル
モ機微ノコトハ當分ノ間成ル可ク直接總裁ト話サレ度ト
云ヘリ)ノミノ間ニ連絡スヘク又右連絡ハ出來得ル限り
密接ニ行フコトニ打合セタリ

本信宛先 支、北平、南京、天津、青島

481 昭和10年12月24日 在青島田尻總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道國庫証券償還金の中國側調達は幣制
改革の進捗に鑑み困難ではないとの観測報告

青島 12月24日後発
本省 12月24日夜着

第二六八號(極秘)

貴電第一三三號ニ關シ(膠濟鐵路局積立金ノ圓預金問題)

一、鐵路局側ノ金圓預金方針ニ變更無ク十一日及十九日滿期
ノ分ハ全額、廿九日ノ分ノ一部モ既ニ日金購入済、正金
ノ預入高十八日現在五十一萬餘圓他ハ中國、中央、金城
ニ預入セル由(委細郵報)

二、今後ノ方針ニ付テハ近ク葛委員長赴寧ノ際協議ヲ爲スコ
トナルヘキ見込ノ由

三、今次ノ幣制改革カ假令北支ヲ除外シテモ曲リナリニ持續
スルモノトセハ南京政府ニ於テ三銀行ニ命シ四千萬圓ノ
返済金ヲ調達セシムルハ敢テ難事ニアラサルヘク此ノ點
今後ノ膠濟鐵道政策研究ノ際考慮ノ要アリト思考ス御氣
附ノコトト存スルモ爲念

(轉電先脱)

日 本 外 交 文 書
昭和期Ⅱ第一部第四卷上
(昭和十年対中国關係)
不 許 複 製

Documents on
Japanese Foreign Policy
Showa Era, Series II Part 1
Volume 4 (1935) Part 1

平成十八年三月十七日印刷
平成十八年三月三十日発行

外務省 編纂

外務省 発行

印刷所
東京都板橋区高島平
九一三十七
株式会社 三陽社